令和３年度　第７回　藤沢市市民活動推進委員会　議事録

１　日　時

２０２１年（令和３年）１１月２８日（日）午後１時～午後４時４３分

２　場　所

藤沢市役所本庁舎５階５－１会議室

３　出席者

（１）委員　８人

山岡委員長、坂井副委員長、林委員、樋口委員、細沼委員、西上委員、原田委員、鎌倉委員

（２）中間報告会参加団体　１０事業・１３団体

①スタート支援コース

・NPO 法人とことこ　・CSF　・NPO 法人紙芝居 Project　・Rankup

②ステップアップ支援コース

・特定非営利活動法人湘南まぜこぜ計画　・障がいのアナ　・SASP

③協働コース

・特定非営利活動法人自立生活サポートセンターもやい／地域共生社会推進室

・フジサワキカク／広報シティプロモーション課

・NPO 法人湘南クリーンエイドフォーラム／日本環境設計（株）

（３）市側　５人

福室参事、森主幹、一瀬上級主査、緒方主査、伊佐治主任

（４）伴走支援者　治田氏

（５）協働コーディネーター　手塚氏、堀氏

４　議　題

（１）スタート支援コース・ステップアップ支援コース中間報告会

（２）協働コース中間報告会

（３）令和４年度ミライカナエル活動サポート事業について

５　開催概要

開会

藤沢市市民活動推進委員会

（山岡委員長）これより第７回藤沢市市民活動推進委員会を開会いたします。

本日は、令和３年度ミライカナエル活動サポート事業の中間報告会を行います。

初めに、委員会の成立要件につきまして、藤沢市市民活動推進条例施行規則第６条第２項により、過半数の委員の出席が必要となりますが、本日は 13 名の委員のうち８名がご出席されていますので、この委員会が成立していることをご報告させていただきます。

なお、本委員会は原則公開となっております。

記録のため会議の状況を録音させていただきますので、ご了承ください。

それでは、本日の進行等について、事務局からお願いいたします。

〇事務局より、進行及び委員自己紹介等について案内が行われた。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

（１）スタート支援コース・ステップアップ支援コース中間報告会

（山岡委員長）それでは、早速、中間報告会に移ってまいりたいと思います。

スタート支援コース、ＮＰＯ法人とことこさん、「『Ｗａ』プロジェクト広報事業」について、発表をお願いいたします。

①ＮＰＯ法人法人とことこ

（NPO 法人とことこ）皆様、こんにちは。ＮＰＯ法人とことこの濱田年古と申します。よろしくお願いします。

（NPO 法人とことこ）同じくＮＰＯ法人とことこの副理事長をさせていただいております栗原智美と申します。よろしくお願いいたします。

私たちは、あおぞらおはなし会、子ども向けのおはなし会をやっているときには、こちらのニックネームのついた名札をつけて活動させていただいています。それと、大人向けのイベントや他団体と一緒にイベントをするときは、こちらの、とことこのスタッフ証をつけて活動させていただいています。

（NPO 法人とことこ）改めまして、皆様、ご支援いただきましてありがとうございます。

今までぼちぼちとやらせていただいています。今年度は、一人でも多くの方にまずと

ことこを知っていただこうということで、広報に力を入れさせていただいています。

「これまでの事業の内容」としては、先ほどお話しさせていただいた、あおぞらおはなし会や、市民の家をお借りしたりしてお部屋の中でやる、妊婦さんからママさん、思春期のお母さんたち、シニアの方の昔話のお話会の勉強会など、いろいろと多世代を対象に活動しております。

あと、講演会も大きなものを２つ開催、共催させていただきました。1 つは、谷口たかひささんの講演会。こちらは環境活動家の方です。藤沢市で講演をしていただいたおかげで、キャンセル待ちが出るくらい人気で、定員に達することができました。ありがとうございました。

こちらの講演会に参加をしていただいた環境活動家の方、また別の方なんですけれども、そちらの方に他団体も紹介していただいたり、寄附をいただいたりということにもつながりました。

あと、ＫＦＰ主催の鵠沼おやじパトロール隊と、鵠洋小学校、鵠沼小学校、鵠沼中学校の３校のＰＴＡと一緒に、鵠沼ふれあいトライアングルとの共催でイベントを開催しまして、こちらにも多くの方にチラシをお配りすることができました。

これまでの結果及び成果として、いろんな団体とつながることでＷａを広げることができたというのが一番大きかったように思います。

緊急事態宣言下で、公に広報することがなかなか難しい時期でしたし、あおぞらおはなし会は不特定多数の方に参加していただくことが難しいこともあったんですけれども、そんな中で、準備期間として昔話の勉強会ですとか、アフターコロナに向けての準備をいろいろとさせていただきました。

「課題に対する対応策」としましては、YouTube での発信、感染症対策をした上で事前申し込み制の室内でのおはなし会や講演会、勉強会などを実施することにさせていただきました。

今回、こちらで支援していただいたお金を使わせていただいてチラシをつくりました。それから、今後またいろんな場所に置いていただけるようなリーフレットも作成していただくように企画中です。

「今後の事業内容」は、あおぞらおはなし会を主に書かせていただいておりますが、それ以外に自主事業もしております。事業内容の１月 29 日のところで書いているんですけれども、昔話の勉強会を開いたご縁で、なぎさ荘さんをお借りして、藤沢の昔話のイベントを開催することも決まっております。

その他、こちらは補足ですけれども、実施事業として、会費をいただくようなイベントなども企画しています。また、ご縁のＷａをつなぐ活動として、藤沢市内の婦人科系クリニックとフェリス女学院大のサークルを結びつけました。

もう一つ、保護犬の活動をしている団体と鵠沼中学校さんをご紹介させていただいて、12 月２日にイベントをすることが決まったそうです。これは、ご紹介というご縁結びの活動をさせていただきました。

「月次進捗状況」のところで補足をさせていただきたいと思います。

８月３日、妊婦から３歳児ママまで、市民の家をお借りしたときに、ママさんたち同士で悩み相談をしていただいたり、お勧め絵本を持ち寄って、それぞれ本を読んでいただいたりして、和気あいあいとママさん同士のＷａができました。それぞれ連絡先を交換していただいたりもして、そこでいい関係ができたと思います。

また、８月 28 日には、もみじ幼稚園と夏祭りをコラボして、お手伝いをさせていただきました。ふじキュン♡のオリジナルクイズ、紙芝居などを披露して、あとは太鼓体験をしたんですけれども、生まれて初めて太鼓を叩きましたというお子さん、お母様たち、お父様たち、皆さん喜んでくださいました。そこでＳＤＧｓのクイズなども出して、楽しみながら学んでいただいて、私たちの団体の紹介などもさせていただくことができしまた。

９月の思春期ママのためのお話会は、長い夏休みで疲弊したお母様たちがすごく喜んでくださって、家族以外とこういった時間や場所を持つことが本当に必要ですねということで、またぜひやってくださいというお声をいただきました。

10 月の谷口たかひささんのおはなし会は、先ほどご案内しましたように、チラシの配布と、ほかの団体のご紹介などもさせていただくことができました。

補足ですが、ミライカナエルに申請していた事業ではありませんが、くげぬま子育て応援メッセのお手伝いをさせていただいて、チラシを置いて、お手伝いを通して他団体ともつながることができました。また、プラザの林さん、お世話になりました。プラザのつてで動画講習にも参加しました。それから、Rankup さんの畑にもお邪魔して、今後のイベントも何か一緒にできたらいいなと思っております。

また、Facebook グループをつくっております。鵠沼を愛する会 Wa プロジェクトというのをつくりまして、メンバーが現在235名ぐらいです。つい先日、樋口委員にお世話になりまして、認知症サポーター養成講座というのもメンバー10 人のうち７名が受講して、日ごろからの地域のつながりや支えの大切さを改めて感じました。私たちＮＰ

O法人とことこが皆さんのお役に立てればいいなと思っております。このようなチラシもできました。

ありがとうございました。

（山岡委員長）ＮＰＯ法人とことこさん、ありがとうございました。

それでは、団体の入れ替えをお願いいたします。

（団体入れ替え）

②ＣＳＦ

（山岡委員長）それでは、スタート支援コース、ユース枠ですね、ＣＳＦさん、「スケートボードで自己肯定感を高めＹＯ！」について、発表をお願いいたします。

（ＣＳＦ）ＣＳＦ代表の黒﨑と申します。本日は、日曜日にもかかわらず、お時間をいただきまして、ありがとうございます。報告をさせていただきたいと思います。

まず、２－２ページ、「月次進捗状況」から報告させていただきます。

８月は、メンバーとのイメージ共有。Zoom や電話などでミーティングをさせていただいて、その後、スケートボードのリサイクル品回収をしました。あとは、協力店の発掘。チラシ作りはちょっと断念しました。

９月になりまして、パソコンが苦手ということもありまして、自分のレベルではチラシが全然つくれなかったので、デザイナーさんにお願いして、こちらは自己資金でつくらせていただきました。

右側にあります「スケートボード　はじめませんか？」というチラシは、私たちの団体のざっくりとした活動内容をわかりやすく載っけております。特に気を使った部分は、私たちが提供させていただきたい、貧困でお困りだったり、障害をお持ちだったり、そういうことでいろんな人生の壁を感じている人たちにこれを知っていただきたいという活動なんですが、あえてそういう文言は入れず、配布をさせていただきました。

配布方法を変えて周知していこうかなと思っています。これを見ていただくと、恐らく誰でもスケートボードを始められるんじゃないと思われるかと思うんですけれども、本当にお困りの方々に１枚ずつ手渡しで周知をしていくという配布方法に変えようかなと思っています。私たちの団体はまだ４名で少ないのですが、人数がふえ過ぎても対応し切れないというところもあるので、団体のレベルに合わせて、ミニマムのところから対応していきたいなと思っています。

また９月に戻りますが、チラシをつくって、リサイクル品を回収して、掃除をして、リシェイプをする。リシェイプというのは、新たに削り直してきれいな形にするということです。スケートスポット探しというのは、藤沢市で言うと北部のほうはまだ当たっていないんですけれども、中部で言うと大庭親水公園の一部、秋葉台体育館の一部、弥勒寺の宮ノ下公園のフラット多目的パーク、あと代表的なのは、鵠沼のスケートパークと銅像前のスケートパーク、ここら辺で提供できるかなというところで下見をして、どんな環境で提供できるかというのを見てきました。

10 月に入りまして、実際にチラシをつくっていただいて、チラシの印刷と、チラシの下のほうに団体のインスタグラムや公式LINEなどをつくらせていただいて、少しずつではありますけれども、情報を流させていただいております。

11 月に移りまして、レディオ湘南様のほうで、ＳＮＳでの活動もしておりますという宣伝をさせていただきました。これに対しても反応が結構ありまして、ＳＮＳでの登録者数と相談の案件がふえてきたなというところです。

前に戻りまして、２―１ページで、「これまでの結果及び成果」というところでは、予定や計画より時間がかかってしまったんですけれども、時間が足りない中でも、スケートスポットや協力店、リサイクル品などは以前よりふえたので、団体の土台づくりができたかなと感じております。

次は、「課題及び対応策」ですけれども、実施者は、実質はまだゼロなんですけれども、ようやく相談ベースまでになってきたかなというところですね。案件としては３件と書いてあるんですけれども、この報告をした後にラジオをさせていただいたので、12 件ぐらいまでふえてきたかなというところです。

課題は、事業を大々的に宣伝することは簡単なんですけれども、知ってもらいたい人、利用していただきたい人にピンポイントに情報を届けたいのに、なかなか宣伝のスピードが上がらないこと。その理由としては、紹介していただく人のスケートのイメージを変えてからではないと紹介につながらないのかなということを実感しております。

ちょっとわかりづらいと思うんですけれども、私が直接利用者様とお話しできるかなと思っていたんですけれども、そこに行き着くまでには、その間にいろいろサービスを行っている方だとか、親御さんがいらっしゃるので、まずそこの理解を得てからでないと利用者につながらないということは、わかってはいたんですけれども、より壁が分厚いなということを実感しました。

その中で、「課題に対する対応策」ですけれども、これまでの営業活動に加えて、紹

介者のイメージを変えるためのチラシ作りと宣伝、説明などが改めて必要かなと感じています。

「今後の事業内容」は、繰り返しになっちゃう部分もあるかと思いますけれども、まずはベースの会員の人たちとのコミュニケーション。これまでの営業活動、協力者の発掘。対象者では紹介者のイメージを変えるためのチラシ作りと説明場所。12 月には必ずサービスを行えるようになってきたかなというところではあります。

ちょっと早いんですけど、以上になります。ありがとうございます。

（山岡委員長）ＣＳＦさん、ありがとうございました。

それでは、団体の入れ替えをお願いいたします。

（団体入れ替え）

③紙芝居 Project

（山岡委員長）それでは、スタート支援コース、ＮＰＯ法人紙芝居 Project さん、「音楽あふれる紙芝居公演」事業について、発表をお願いいたします。

（NPO 法人紙芝居 Project）それでは、よろしくお願いいたします。紙芝居 Project 代表の島田です。

進捗状況のご報告に関しまして、コロナの影響もあり、スタート時期は遅れてしまいました。しかしながら、10 月に入りまして、ようやく受け入れ先の保育園様でも、ぜひ来てくださいというお話がありましたので、早速 11 月から訪問を始めさせていただきました。

今日の段階において、11 月４日、ブリーズキッズ保育園本鵠沼様、９日、同保育園の辻堂新町園様、16 日にはベストキッズ藤沢保育園様、18 日は、同保育園の大庭にあるベストキッズ藤沢大庭保育園様と、各 26 名、36 名、12 名、12 名という形で、大変多くの保育園の園児の皆様に紙芝居公演を見ていただいている状況でございます。

遠くて見えないと思うんですけど、こちらが実際に保育園様で口演している「江島縁起」という紙芝居になります。皆様のほうにお回ししますので、見ていただければと思います。

この話が江島神社に伝わる民話ということで、先日、江島神社のほうにご訪問させていただき、こちらを見ていただきましたら、ぜひこのお話を多くの方に見ていただけるように広く発信していただきたい、江島神社のほうでも全面協力するという形で応援し

ていただけた次第でございます。機会があれば、ぜひ江島神社で口演していただきたいというお話もいただけている状況であります。

紙芝居公演の今回の事業については、最初は保育園様にお電話で問い合わせをして、どうですかということをやっていたんですけれども、民間保育園、認可保育園の園長会という１つの大きな団体がございまして、そちらのほうからお声がけをいただき、園長会で、こういう事業があるんですというお話をさせていただきましたら、大変多くの、ほぼ全部の保育園様から、ぜひ来ていただきたいといった形でお声がけをいただきました。今年度については 10 園限定といった形で絞らせていただかなきゃいけないので、来年度以降、お声がけさせていただきたいという形で、幾つかお断りをしている状況ではあります。

ですので、「課題」のところに書かせていただきましたが、この事業に関しては大変ニーズが高い。特にコロナもありまして、子どもたちにこういったことを見せてあげたいという保育園様が多い。また、保育園様だけでなく、今回訪問させていただいたブリーズキッズ様、ベストキッズ様、それぞれが介護施設また医療施設をお持ちということで、ぜひそちらのほうにも来ていただきたいというお声があるんですね。

この事業そのものは継続していかなきゃいけない我々の課題と受け止めましたので、来年度以降もこれを継続していけるように、課題でありました情報発信、支援者を募っていくというところに力を入れていかなきゃいけないと感じております。

その中で、やはり課題でありました費用面については、今回、１口演するに当たって２万円というお金を紙芝居師さんのほうに報酬としてお支払いすると計上していましたが、念のため、どうですか、こういった状況なので金額が変えられませんかとご相談させていただいたら、半額でいいよと言っていただけましたので、じゃ、それならということで、今回につきましては、予定は 10 施設だったんですけれども、15 施設までふやさせていただきました。

現在予定として入っているのが、12 月はこのまま訪問なし、１月については５施設、２月に５施設、３月に１施設という形で、計 15 施設回る予定であります。

もう一つは、この事業はニーズが大変高いということで、訪問先に紙芝居師を多く派遣しなきゃいけない。そこで紙芝居師をどう育成していくか、これがやはり課題になっております。

その中においては、実はきょう、午前中に紙芝居のワークショップを開催したんですね。そういったワークショップ等を開催することによって、紙芝居の口演者をふやして

いく。我々だけでは力が足りませんので、先日、その紙芝居師の方のご紹介で、やべみつのりさんという方をご紹介していただきました。皆さん、漫才のカラテカの矢部太郎さんをご存じですか。あの方のお父様なんですが、実は絵本作家なんですよ。その方が紙芝居の重要性を語られていて、一般の方たちの手づくり紙芝居コンクールというものを、ことしで 21 回目やっておられるんですね。先日、神奈川県の桜木町にある青少年センターのほうでやっていたんですが、私もそちらのほうを見に行ってお話をさせていただいて、そちらのほうの団体と協力してやっていける。そちらの団体が紙芝居の読み手を派遣してくださったり、紙芝居のワークショップ等も展開している中において、そういったものと連携していきながら、一人でも多くの紙芝居師をふやしていくということに早急に取り組めたらなと思っております。

現状況においては、そういった形で、スタートは遅れましたが順調にいっている。我々が思っていたように、市場ニーズとしては非常に高い。なので、我々としたら、一人でも多くの支援者をどう募っていくのかというのを、この事業の成果をもってより発信していければいいなと考えております。

引き続き頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（山岡委員長）ＮＰＯ法人紙芝居 Project さん、ありがとうございました。

それでは、団体の入れ替えをお願いいたします。

（団体入れ替え）

④Rankup

（山岡委員長）それでは、スタート支援コース、Rankup さん、「貧困世帯への支援事業」について、発表をお願いいたします。

（Rankup）皆さん、こんにちは。Rankup 代表の佐々木俊と申します。本日はよろしくお願いいたします。

まず最初に、私たちが行っている「貧困世帯への支援事業～Each Other～」について、簡単にご説明させていただきます。

この事業は、２つの柱を軸に展開していきます。１つ目が絆市の開催、２つ目が絆ＢＯＸの設置になっています。

まず、絆市についてですが、最初に私たちが野菜を栽培し、月２回程度、野菜を販売する絆市を開催いたします。そして、その売上金の一部で物資を購入し、登録団体や貧

困世帯に分配する仕組みになっています。ここで言う登録団体は、こども食堂など、貧困世帯を支援する団体が対象となっております。

続いては、絆ＢＯＸについてです。こちらは、地域の方々から物資を購入する絆ＢＯＸをお店に設置いたします。２週間に１回のペースで自団体が回収し、先ほどの登録団体や貧困世帯に分配する流れになっています。この２つを使い、貧困世帯を支援していきたいと考えています。

続いて、これまでの取り組みについてお話しさせていただきます。

まず、８月ですが、先ほどの絆市を開催することができました。まず初めにチラシを 20 部印刷し、２カ所に配布することができました。このときに販売した野菜は、長ネギ、ナス、キュウリなどで、売上金が 6270 円。この一部を使ってお菓子などを購入し、登録団体に提供することができました。

続いて、児童養護施設への農業体験です。５月の終わりから、施設の子どもたちと一緒にサツマイモの栽培の農業体験を行っています。ちょうど８月は暑い時期でもあり、伸び切った草を刈り、子どもたちと一緒に汗を流しながら農業体験を行うことができました。

続いては野菜提供です。ことしから、自団体が栽培した野菜や農家さんからいただいた野菜を、先ほどの登録団体に提供しています。８月も継続的に登録団体に野菜を提供することができました。

９月は、絆ＢＯＸのチラシを配布することができました。120 部印刷し、藤沢市内の市民センターなど、計 10 カ所以上に配布することができました。その成果もありまして、設置団体には、地域の方々からたくさんの物資を集めることができました。そして無事、登録団体に提供し、いただいた貧困世帯の方々は喜んでいたという話を聞いております。

９月も、引き続き継続的に野菜を提供することができました。

10 月は、絆市を２回開催することができました。それぞれチラシを 20 部印刷し、２カ所に配布いたしました。このときの野菜は、長ネギ、ミズナ、ワサビ菜などを販売し、10 月９日の絆市に関しては 4390 円、10 月 26 日に関しては 4600 円の売り上げになりました。この売上金の一部を使い、お菓子などを購入し、登録団体に提供いたしました。

継続ではありますが、絆ＢＯＸも少しずつ地域の方々の認知が広がり、物資をいただくことができました。その物資を無事、登録団体に提供いたしました。

野菜提供は、10 月ということもあり、私たちが栽培したサツマイモの収穫時期とち

ょうどいいタイミングで重なり、サツマイモを多く提供することができました。そして、このときはちょうどご縁食堂さんのほうに提供いたしまして、サツマイモを使ったカレーなどを提供することができました。

11 月ですが、知人のご厚意もあって、小さいながらもマルシェで野菜を販売することができました。このときの野菜は、サツマイモ、ミズナ、ニンジンなどを販売し、売上金が 4710 円に達しました。

絆ＢＯＸについてですが、引き続き地域の方々から物資を集めることができ、登録団体に提供することができました。

③も同様に、継続しながら野菜提供を登録団体に行っております。

最後は、先ほどのサツマイモの栽培体験なんですが、先日、無事に子どもたちと一緒にサツマイモを収穫することができました。思っていたよりもたくさんのサツマイモを収穫することができ、子どもたちの笑顔を見ることができ、一安心しているところです。改めて、子どもたちの笑顔をつくることが自分たちの役割なんだということも実感できて、よかったなと思っております。

続いて、「課題と対策」についてお話しさせていただきます。

この事業を展開する中で幾つかの課題を見つけることができたんですが、主に３つの課題について Rankup は重点を置き、対策に向かって頑張っていきたいと思います。

１つ目が、野菜栽培の人員確保です。この事業の主なテーマが野菜栽培なので、会員の方やボランティアでお手伝いに来てくれる方はいるんですが、基本、私一人で行っているので、今後、畑を拡大すると、やはり限界があるなと感じております。

この対策に向けてポイントが２点あります。

１つ目が、ＳＮＳを通じてお手伝いに来てくれる方を募集いたします。１週間に１回ペースでボランティアの方々が来てくれると、すごく助かると思っております。

２点目は、ボランティア募集のフリーペーパーに掲載してもらうように働きかけることです。こちらのほうは多くの方々が見る機会があると思うので、それを使って募集をかけたいと思います。

２点目の課題についてですが、絆ＢＯＸ設置団体の確保です。現在のところ、まだ１カ所しか集まっていないので、この設置団体をいかに確保するかが課題かなと思っております。

この解決策ですが、継続してＳＮＳで募集をかけながら、もっと身近な方々にアプローチをかけていきたいと思っております。例えば会員の方やその知人、そして絆市に来

てくれたお客さんに対して積極的にアプローチをかけようと思っています。それらの方々を通じて、知っているお店などを紹介してもらい、さらにそこから絆ＢＯＸ設置団体になるように働きかけたいと思っております。

３つ目が、目標金額とのギャップがあるということです。当初設定した、１回での絆市の売上金額は 7500 円なんですが、そこまで至っていないところが現状の課題となっております。

この解決策ですが、栽培する野菜の種類をふやしたり、あとは苗販売も積極的に行っていきたいと思っております。

以上のことを通じて、もっともっと Each Other が発展するように頑張っていきたいと思います。今後ともよろしくお願いします。

以上です。

（山岡委員長）Rankup さん、ありがとうございました。

それでは、団体の入れ替えをお願いします。

（団体入れ替え）

⑤ＮＰＯ法人湘南まぜこぜ計画

（山岡委員長）それでは、ステップアップ支援コース、特定非営利活動法人湘南まぜこぜ計画さん、「10 代と本音トーク☆性についての出前授業」について、発表をお願いいたします。

（ＮＰＯ法人湘南まぜこぜ計画）こんにちは。ＮＰＯ法人湘南まぜこぜ計画でございます。

審査の際にも、パワーポイントで、どんなことをやろうとしているのかをご紹介させていただいたんですけれども、４月に、市内にお住まいの産婦人科医の先生をお招きして、私どもがそれまでやっておりました寺子屋ハウスという、子どもの居場所の中の子どもたちと一緒に性について勉強しようというところから始まりました。当時来ていた小学生の子どもたちが、５年もたつと、中学生、高校生になっていく中で、コロナの問題があることもありまして、食事の問題や学習支援ということにとどまらない、性についての学びを一緒に始めようというきっかけで進めてきました。ちょうど高校生になった女性たちを中心に企画を立てまして、産婦人科医の先生の講演の後、自分たちでそれをさらにより多くの同世代に伝えようという企画でございます。

当初の目標どおり進めてはきたんですけれども、自分たちが性について一緒に学べる

ような教材をつくって、中学校や高校に出前の授業をしようということで、具体的にその後の活動を進めてきました。

今も教材づくりのディスカッションを毎回重ねているんですけれども、高校生だけではなくて、この企画を始めてから、８月以降、さまざまな分野の専門家にもかかわってもらえるようになりまして、それが、進行表にもありますように８月からの取り組みでございます。

こういった活動を、授業を通じて、10 代、とりわけ対象に考えているのは中学３年生と高校生をメインに、学校に行っての授業展開ができないか。そういう子どもたちに、どうやって性についての問題を伝えていくかということでは、10 代の当事者もそうなんですけど、学校の先生にも加わってもらって、この間、議論を進めているところです。

いろいろとやっていく中で、今一つ考えているのは、授業といっても、一方的なものではなく、生徒たち、先生にもできるだけ参加をしてもらい、いろんなやりとりを自分事として考えてもらうような仕立てを進めてきました。

特に、各学校で授業した後、アンケートを子どもたちにその場で書いてもらう。そうしたアンケートをやっていただいた上で、きちっと押さえるべきところをこちらからも提供する。

こういったアンケートを幾つか用意しています。例えば性的な同意ということについて、今の時点で中学生、高校生がどう考えているかという状況の把握をまずしながら、皆さんに大事と思われるポイントを共有していくという形で授業を進めようということで、今、議論が進んでいるところです。

教材づくりがほぼ完成してきましたので、ここの予定にある出前授業の進め方について、今、議論をしているところです。そういったところを日々、高校生、学校の先生の有志などにも加わっていただいて進めているところなんですけれども、高校生は受験生もいまして、そのあたりが、やりとりを進めていく上で困難になっている課題です。

そうやって時間がたつ中で、いよいよ各学校に、「こういう授業をやりたいのですが、いかがでしょうか」というオファーをかける時期に来ていると思っていまして、そういった案内のチラシや呼びかけを詰めている段階です。

当初の企画の最初にタウン誌などにも掲載いただいたので、市の助成事業に入れていただいたこともあわせて、できるだけ広報させていただいて、いろんな学校で、それは公立学校に限らず、できたら私立の学校も含めて、藤沢市内の高校と中学をできたら制覇したい。それぞれの学校の子どもたちが、今、性についてどういう課題を抱えている

か、今の授業の中でなかなか踏み込めない課題をぜひ見える化して、一緒にその課題に当たれるような取り組みにしていきたいというふうに進めている最中です。

これから、学校にオファーをかけていくということになるんですが、今この制作にかかわっている高校生の学校でまず手始めにやりたいと思っていまして、それに向けた模擬授業を12月5日から始める予定でございます。

大体そんなところでよろしいでしょうか。

以上です。ありがとうございました。

（山岡委員長）特定非営利活動法人湘南まぜこぜ計画さん、ありがとうございました。

それでは、団体さんの入れかえをお願いします。

（団体入れ替え）

⑥障がいのアナ

（山岡委員長）それでは、ステップアップ支援コース、障がいのアナさん、「『障がいのアナ』webサイト改革」について、発表をお願いいたします。

（障がいのアナ）障がいのアナの深見と申します。「『障がいのアナ』webサイト改革」ということで今回やらせていただいていまして、その中間報告をさせていただきたいと思います。

事業の目的としましては、今後の活動基盤を固めるために、webサイトのリニューアルをやらせていただいています。見やすさ・読みやすさ、検索のしやすさ、記事の拡充を、重点的に3つのポイントとして置かせていただきました。

事業の展開・スケジュールですが、全体像は3月までだとこんな感じなんですが、まず8月にサイトリニューアルに当たってのアンケートを実施しました。

続いて9月に、そのアンケート結果をもとにして、サイトのリニューアル工事ですね。9月 30 日にサイトを公開しましたが、これが全部ではなくて、過去の記事の移行だったり、新しい機能だったり、ロゴの完成とか、完全リニューアルというところまでは結構時間がかかって、一応オープンしたんだけど、その後もずっと改修が続いていたという形で進んでいきました。

10 月のところで、バツマークがスライド上についているんですが、サイトリニューアルでいろいろ時間がかかっちゃったなんていうこともあって、進んでいない部分もあったりします。この辺は後ほどご説明させていただければと思います。

あと、全体を通してインタビュー活動ということで、月３本のインタビューを続けています。

これが全体のスケジュール観です。

達成したこととしましては、アンケートは予定どおり実施ができました。多くの回答をいただいて、読者の声を参考にしたサイトリニューアルができたのかなと思っています。

ホームページのリニューアルは、最終的には11月19日に全体が完成しました。報告書のところでは、まだ完成できていないよということでご報告させていただいていたんですが、ようやく完成しました。見やすさ・読みやすさとか、検索のしやすさを重視して、操作等もシンプルでわかりやすくするということを重点に置いた形です。

次のスライドから、実際の画面を見ていただければと思うんですが、まずトップページを、シンプルかつ、新着記事をわかりやすく見えるように変えました。左がもとのサイトです。横にスクロールして新しい記事を探すような感じだったんですけど、今度は全部縦のスクロールに変えて、どんどん新しい記事が見える。常に一番上に新しい記事が来るような感じの構成に変えました。

続いて、記事も、ＵＤフォントを採用したり色を工夫して、見やすくなったかな、読みやすくなったかなと思います。視覚にちょっと弱さがある方でも見やすいような色の配置などを考慮して変更をかけました。

続いて、トップページの新着記事は、最初のトップページだと６個の記事が見えているんですが、そこまで下がっていくと「VIEW MORE」というボタンがあるので、そこをクリックすると、もっと前の記事がどんどん出てくるという形に変更しています。新着順に読んでいくという感じのことができるトップページです。

新たに、キーワード検索から、気になるキーワードをセレクトできるように変えました。トップページの上の一番左のところですか、スマホだとタップする感じですが、「KEYWORDS」というところをクリックすると、幾つか代表的なキーワードが出てきて、「全部を表示する」とやると、さらにいろんなキーワードが出てくる形で、キーワードからの検索ができるようになっています。こんなことを改修しました。

その中で、達成できなかったことも幾つかあります。赤字の上の部分ですね。サイト完成の遅れにより、見やすさ調査を本当は10月から12月の実施予定だったんですが、それが開始できませんでした。19 日に完成できたので、12 月１日から、ちょっと遅れて実施をする予定です。期間を延長しない理由としては、その次の調査のこともあるの

で、この期間で行いたいなと思っています。

あと、インタビュー記事が月３本掲載できていない状況があります。要因としては、サイト制作にすごく時間がかかってしまったり、代表の小川がコロナに罹患してしまったり、そんなこともあって活動が止まっちゃったというところです。サイトが完成する前に記事が書けなかったので、ちょっとたまっちゃっています。ですが、インタビュー自体はできているものがあるので、これから順次公開をしていく予定になっています。

「実施の困難さ・今後の課題」という部分ですが、現状において私たちは、実施の困難さとか今後の課題はあまり感じていないかなと思っています。前半に達成できていないことがあるんですが、そこをしっかりと確実に回収し、ファンをふやしていくということを次の目標としていきたいなと思っています。

「今後、実施すること」としては、先ほどもお伝えしましたが、12 月１日からアンケートを実施する。内容としては、事業の３つのポイントの評価をしていくというところと、12 月中にチラシと団体紹介カードをつくって配架したいなと思っています。

あと、記事の掲載ですね。たまってしまっているものをどんどんアップしたい。その後、２月、３月で最終的な評価のためのアンケートを実施していきたいなと思っています。インタビュー記事がまだ少ないので、有効な評価はできていませんが、中間報告時点での数値は、「進捗状況確認書」に載せていますので、ご確認いただければと思います。

中間報告は以上となります。

新しく、きれいに生まれ変わったサイトなので、皆さんまた改めて見ていただけると、より具体的に内容がわかるかと思いますので、そちらを見ていただければと思います。

あと、変わった部分はコラムで詳しい記事も上がっていますので、ぜひごらんください。よろしくお願いします。ありがとうございます。

（山岡委員長）障がいのアナさん、ありがとうございました。

それでは、団体の入れ替えをお願いします。

（団体入れ替え）

⑦ＳＡＳＰ

（山岡委員長）それでは、ステップアップ支援コース、ＳＡＳＰさん、「ミニミュージカルとワークショップの実施」について、発表をお願いします。

（ＳＡＳＰ）ＳＡＳＰと書いて、サスプと読みます。ＳＡＳＰ代表の小宮明日翔です。よろしくお願いします。

まず、僕たちについて軽く紹介したいと思うんですが、ＳＡＳＰのメンバーのほぼ全員が現役の学生であって、しかも役者であります。役者といっても、10 年以上のキャリアを持った人たちになります。僕自身も現在役者としての活動が 14 年目になって、いろんな活動を今もしています。

そんな僕たちの今回の事業内容としては、子どもたちに対してはパフォーマンスアートの楽しさを感じてもらって、披露するという体験から、自己肯定感などを高めてもらいたいと思って活動しています。また、その様子を、親御さんだったり、地域の方々に見ていいただくことによって、文化・芸術への理解を深めてもらい、アーティストの社会的地位向上に寄与したいなと思っています。具体的には、20 回程度の歌やダンスなどのワークショップを行う。そして、その成果発表としてコンサートを主催して行いたいと考えています。

そのワークショップの様子なんですが、ぜひ動画を見ていただきたいです。

これは、僕が幼いころからお世話になっている松竹の子役指導のプロの先生をゲスト講師としてお招きして、発声の指導を行っている様子になります。

歌を歌うにしても何にしても、表現するためには、まず相手に伝えることが大事になるので、伝えるための基礎となる発声講座をここで一番最初に行いました。

これは若者では結構人気なんですけど、YOASOBI さんの「群青」という曲を、オリジナルのふりをつくって、このように練習しています。

これもはやりの曲ですね。「Dynamite」という曲をやりたいという希望が子どもたちから結構あったので、「Dynamite」を練習するダンスのワークショップも行いました。

これは「外郎売」といって、プロの子役の世界では基礎として行う、少し難しめの芝居の原稿になるんですけど、それを子どもたちにやってもらって、自分の成果を発表する場になります。

これは小学生の子どもにはすごく難しいんですけど、この子とかはよくできていて、僕たちもとてもびっくりしました。

僕が住んでいる地域の藤沢ＳＳＴの文化祭の催し物として、僕たちで動画をつくって披露させていただきました。これは、そのときの動画になります。

これは、さっきのワークショップでやった「群青」ですね。さっきのワークショップ

だったり、その他、地域の子どもたちから募集したダンス動画を集めて編集して、1 つにして発表しました。

主に、今、見ていただいたような活動をしてきました。

「進捗状況」の「実施内容」は、今ごらんになっていただいたような感じです。

「結果」なんですけれども、前年度からこのような活動をしていて、前年度のときの参加者の子どもたちが継続して今回も参加してくれて、それに加えて、ことし、新規募集をかけて新しく集まってくれた子ども、合わせて 20 人が参加してくれました。今はコロナの状況もあるので、20 人ぐらいが僕たちにとってはベストな人数だと考えています。

あとは、人気のダンス曲だったり、人気曲につけた僕たちのオリジナルの振りつけを、子どもたちは見事にマスターしてくれました。特に前年度から参加してくれた子どもたちは、ことしはさらに積極性が増して、自主的に練習もたくさんしてくれて、僕たちもすごくうれしかったです。

「現状の課題と対策」です。

まず１つ目は、僕たちは学生であり役者であるという話を冒頭にしましたが、役者という本業があって、特に今期はメンバーも僕も急に仕事が決まることが多くて、ワークショップをなかなか思うように開催できなかったということがありました。ありがたいことに、代表である僕も、６月から立て続けに舞台に出演させていただいていまして、実は 12 月に新橋演舞場で１カ月間、長丁場なんですけど、舟木一夫さんの舞台公演に出演することにもなっていまして、４日後が本番です。

あとは、ワークショップを開催するための公民館の場所の優先予約ができなくて、メンバーとなかなか予定が合わないということがありました。

「対策」として、１つ目は飛ばします。

２つ目は、人員を確保したいということで、僕たちが行っていく活動の中で、結構共感してもらえる仲間が多いので、そういった人たちにメンバーになってくれないかということで、メンバーをふやすことを検討しています。

もう一つ、場所についてなんですが、市民自治推進課の担当の方の助言もあって、公民館に団体登録をすることによって、さらに今までよりも場所を早く優先してとれるようにしていきたいなと思っています。

今後ですが、引き続きワークショップを行っていって、年明けの集大成のコンサートに向けて、もっとワークショップの回数もふやして、子どもたちと頑張っていけたらな

と思っています。

以上です。ありがとうございました。

（山岡委員長）ＳＡＳＰさん、ありがとうございました。

以上で、スタート支援コース、ステップアップ支援コース全団体の報告が終了いたしました。

ここで一旦、事務局にマイクをお返しいたします。

（事務局）報告団体の皆様、山岡委員長、ありがとうございました。

ここで、伴走支援講座講師の治田さんから、一言コメントを頂戴したいと思います。

治田さん、よろしくお願いいたします。

（伴走支援者　治田氏）皆さん、発表お疲れさまでした。コロナの状況の中で、なかなか活動がうまくいかなかったという話は折に触れてお伺いしていたんですけれども、審査会から見事採択されて、この間にいろいろな動きをされていたんだなということがよくわかる報告だったなと思っております。

まず、とことこさんからコメントさせていただきます。

チラシがとてもよくできたなと。最初に拝見したときは、対象が誰なのかということを明確にして、自分たちが何者なのかということ、自分たちがやっていること、それ以外の人がやっていることをちゃんと分けて整理しましょうとお伝えしましたところ、あとは、自分たちとして活動費が欲しいということであれば、それもセンスよく入れましょうということで、レイアウト等はまだいろいろ考えるところがあるかなと思いましたけれども、まずは一歩進んだのかなとは思っております。

同じくＣＳＦさんも、いいチラシができたんじゃないかなと思います。ＮＰＯの活動でよくありがちなのが、困っている方々に対して、「あなた、困ってますよね」というチラシは誰も手にとりませんよねという話をしたときに、特にＣＳＦさんは、そういうことは一切書かずに、スケボーは楽しいよということを前面に出そうということで、ちゃんとパートナーを見つけて、あそこまで形にされたのはよかったと思いますし、活動していく中で、協力者というか、いろんな人を巻き込んでいっている様子がうかがえました。

スケートボードについては審査会からもいろんなご意見があったかと思うんですね。とはいってもなかなか許しがたいものもあるみたいなところもあって、そこを調整していくにも、いろんな人に理解をしていただいて、自分たちが語るだけじゃなくて、ほかの方々に、ＣＳＦさんの活動はここがいいんだよと言ってもらえるような関係をつくっ

ていっていただけたらというか、その一歩が見えた報告だったかなと思っております。

３番目の紙芝居 Project さんは、紙芝居を見せていただいて、こういう感じでやっていらっしゃるというのがよくわかりました。そして、活動も 10 より 15 ということで広がっているというか、それはそれで大変だと思うんですけれども、着実に進めていただけたらなと思っています。

受益者さんからなかなかお金が取れない活動で、それをどういうふうにしていくかというのは、私たち側から、こうしたらいいんじゃないと幾つかお伝えはしたんですけど、団体としてどうしたいかということを曲げずに進めていかれている姿勢はよいなと思っております。

あとは、次の課題として、紙芝居師の人数をどういうふうにふやしていくかというところに、うまく活動費が集められるのか、協賛が集められるのか、何が違う手だてが見えてきたらいいのかなと思ってはおります。

実際に活動している保育園とかそういうところも、お金がないわけではないと思うんですけれども、でも、ご自身が運営者であるということもあって、その辺の課題もよくおわかりになっておられて、その辺をまたこの３カ月ほどでやりとりができたらなと思っております。

４番目の Rankup さんは、いつもプレゼンが上手で、資料もしっかりつくられていて、発表もよかったなと思っております。この間、いろいろ工夫されましたよね。貧困世帯の方々へのアプローチはすごく難しいですよね、「困っている子、集まれ」と言ってもだめだよという話をした中で、いろいろ工夫をして活動されているかなということと、恐らくこちらの団体さんについては、参加をしていらっしゃる方自体が、Rankup さんの活動を通じていろんな人脈が得られたりとか、活動の場が得られているということに価値があるんじゃないかと思っていて、そこのところをどんどん研ぎ澄ませていったら、自分たちの活動を指し示す言葉がもう少し変わってくるんじゃないか、そこまでいったら結構いいかなと思いました。その方向性が少しずつ見えてきている報告だったかなと思っております。

ステップアップ支援コースに移ります。

ＮＰＯ法人湘南まぜこぜ計画さん、発表お疲れさまでした。きょうご発表の原田さんからの報告は非常によくわかりました。実際に今、私どもがおつき合いをさせていただいているのはその次の世代の方で、いろいろ頑張って講座にもついてきていただいているかなと思うんです。

実際に学生さんを動かすというのはすごく大変で、あと、学校の現場との兼ね合いから進めていくのはすごく難しいかと思うんですけれども、これからどういうふうに進めていくのかというのは、また組織の中でもいろいろ折り合いをつけながら進めていっていただけたらなと思っております。

制作物をつくるのは、なかなか日程どおりに進めにくいところもありますし、いろんな方のいろんな意見を入れていかなきゃいけないというのも大変ですし、動画コンテンツをつくるのも、クオリティーをどう担保していくかというのもあるかと思いますので、この先もよりよい作品というか、皆さんが見て、いろんなことを考えられる教材にしていっていただけたらなと思いました。

それから、障がいのアナさんも、発表お疲れさまでした。障がいのアナさんも発表がとてもお上手でいらして、今回も、何が進んでいて、何ができていなかったというのをきちんとご報告いただいたかな。そして、webサイトを制作する中で、去年からの課題だったんですけど、代表の方の思いが先にいって仲間がついていくことが難しかったということを、ちゃんとうまく組織の中で調整をしながら、途中コロナになっちゃったりもして大変だったけれども、それほど大幅に遅れることもなく進められているのはよかったかなと思っております。この先も着実に進められたなと思っております。

サイトも、皆さん見ていただいておわかりのとおり、すごく見やすいですし、障害の方だけが見るとか、関係者だけが見るものにしたくないということは伝わるかなというときに、ぜひ皆さんにご協力いただきたいのは、皆さんも見ていただいてフィードバックしてあげると、よりいいんじゃないかなと思っております。

これは障がいのアナさんのことだけじゃなくて、ほかの方の活動も相互に見合ってくださいねということをお伝えしたいと思うんです。そういう意味では、いい事例の１つじゃないかなと思っております。

最後のＳＡＳＰさん、お疲れさまでした。発表するのはお手ものなのですけれども、私は２年おつき合いして、やっと活動がよくわかったなと思いました。動画の力はすごいというか、大きいなと思っていて、短い時間でも伝えたいことが伝わる。表現者として、ああいうものをきちっとつくっていくというのは大事だし、例えばウェブサイトを見たら、私は確認できていないんですけど、ちょっとクリックしたら見られるようになっているといいかな。ただ、お子さんたちの顔があまりあちこち見えちゃいけないから、その難しさもあるかと思うんですけど、やっていることをもっと広く知ってもらうように、いろいろ工夫されたらいいのかなと思いました。そういう意味では、きょうの発表

はとてもよかったなと思っています。

一方で、去年から立てている課題が変わっていないんですね。要は、ご自身が忙しいとか、活動者だからこそ、なかなか時間がとれないのはわかるんだけれども、次世代じゃなくて、ほかの人を立てて活動を維持していくようなことをしていかないと、結局いいことをやっていても伝わっていかない。参加者にとっても不安定になってしまうので、協力者をどこに立てるのか、もしくは役者以外の人をちゃんと事務局に入れるのか、そこはそろそろ進めていったりとか、活動費をどう稼ぐかというところもずっと課題になっているかと思います。もちろん芸術団体は助成金に頼るのも一つだと思うんですけれども、それには、いい企画を連発していかなきゃいけないので、それに耐え得る事務局をつくれるかどうかということになるかなと思いました。頑張ってください。

私から拙いお話をさせていただきましたが、両方のコースともに、この助成金をいただいている間に、来年以降どうするか、組織基盤をどうするかという話は毎回お伝えしております。次回お会いするときは、そういうお話ができたらなと思っております。

皆さん、お疲れさまでした。

（事務局）治田さん、ありがとうございました。

では、ここから、両コース団体及び市民活動推進委員会の委員の方による意見交換に移りたいと思います。

本日の意見交換の趣旨は、事業の成果がきちんと出るように、達成できるように、そのために行う意見交換ですので、団体の皆様同士の意見交換も含めて、ぜひ積極的にいただければと思います。

時間は 25 分間程度を予定しております。終了１分前ぐらいになりましたら、事務局からお声がけします。スタート支援コースは山岡委員長に司会をしていただきます。ステップアップ支援コースは坂井福委員長に司会をお願いしております。よろしくお願いいたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

スタート支援コース・ステップアップ支援コース
グループディスカッション

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

（事務局）すみません。いろいろお話が盛り上がっているところで、もしかしたら途中だ

ったのかもしれませんが、意見交換の時間を終了いたします。

最後に、山岡委員長、ご講評をよろしくお願いいたします。

（山岡委員長）発表は聞かせていただいたんですけれども、私はこっちのグループ（スタート支援コース）で話を聞かせていただいたので、主にスタート支援を踏まえてお話しさせていただきます。

スタート支援は活動がスタートしたばかりですから、課題があるのは当たり前です。うまくいっていないところがあって、委員の皆さんから、これはちょっとどうなんですか、大丈夫ですかという質問もあった。でも、それは当たり前だと思っていただいていいと思います。１年目、２年目から活動がスイスイいくようなら、誰だって、ＮＰＯとかの活動が簡単にできることになる。逆に言うと、皆さんが課題きちんと認識されていて、しかもその解決策を皆さん、それぞれちゃんと考えておられる。なおかつ、最後に樋口委員から、皆さんの活動のこだわりは何ですかと質問されたときに、うーんと言いよどむことなく、すぐパッパッと、これなんです、これなんですとちゃんとおっしゃっていた。

そうしたことからも、皆さん活動にしっかり軸があって、こういうことをしたいと思われていて、それに対して現状課題があって、もちろんそれに対する解決策は、今は見いだせていないけれども、探っていくんだという状態であるわけです。ですから、中間の発表を聞いて、活動自体は団体ごとに差はあるんですけど、皆さん着実に進んでおられるので、私の立場からすると、すごくうれしい状態です。

もちろん気になることはあるんです。ちょっと大丈夫かなと思っているところもあるんですけれども、それも含めて、すごく安心して、こっちも励まされる中間報告だったと思います。どうもありがとうございました。

（坂井副委員長）ステップアップのほうは３団体ありまして、非常にバラエティーに富んだそれぞれの活動のご報告をいただきました。

コロナの中での取り組みではあるんですけど、それぞれ工夫をされて、遅れはしながらも着実に進んでいるのかなというふうに受け止めました。ほんとはあと１時間ぐらい議論したいところでした。

湘南まぜこぜ計画さんの性教育なんかも、とても大きなテーマで、これだけで半日ぐらいは議論できそうだなという感じでした。いずれにしても、教材はある程度でき上がったんですが、それをどう使っていくのか、学校にどう展開していくのかというところがこれからの課題で、かかわってくださった生徒さん、先生、そういうところを切り口

にして、これから徐々にというお考えだと思います。

そうした中で、性の部分だけを切り出して何かやるというのはとても違和感があるという意見もありました。もっと人間の生活全体の中で捉えていって、いろんな場面で少しずつ教育がされていって、最後に性教育もある。海外ではそういうことが多いそうですけれども、そういったことも考えてみてはいかがでしょうかという意見とか、あるいは、出前授業だけじゃなくて、ＳＮＳの活用なども考えてみたらどうかというご提言もありました。

まずはとにかく一回やってみるということじゃないかな。やってみて、現場の先生方や生徒さんの反応をきちんと受け止めながら進化していけばいいんじゃないかと私は思いましたので、今後の活動に大いに期待をしているところでございます。

障がいのアナさんにつきましては、ちょっと遅れましたけれども、ホームページのリニューアルが無事にでき上がりました。これからそれを皆さんに見ていただきながら、調査もして、どう改善されたのか、さらなる改善点はあるのかということをやりながら、さらに進化していきたいというご意見でした。

その中で、ホームページを見られない人もいますよねということもあって、そこは紙媒体での対応も並行して進めていくというお話でしたので、今後、そういった点を含めて、活動の充実をさらに進めていただければと感じました。

ＳＡＳＰさんは、映像を見せていただいて、とてもすばらしい活動だなということを共有したんですけれども、そういった中で、活動の継続性ですね。課題としても、役者さんに仕事が入ってくるとか、費用の問題とか、そういったこともあるので、そこはこれから考えながらしっかりやっていく必要があるだろうということです。

１つは、マネジメント、運営体制をどうつくっていくかということと、指導する先生方の確保は、ご自身からもご提案がありました。さらには、ただ演劇がうまくなる子を育てるということじゃなくて、これを通じて何を子どもたちに学んでほしいのかというところをしっかり考えて、そこに柱を立てて、事業を発展させていただきたいという意見がありました。

短い時間でしたけれども、非常に建設的なお話ができたんじゃないかなと思いますので、きょうをきっかけとして、これからさらに事業を活発に進めていただけたらと思いました。

以上でございます。

（事務局）山岡委員長、坂井副委員長、ありがとうございました。

皆様、長時間にわたり、ありがとうございました。

スタート支援コース、ステップアップ支援コースの団体の皆様におかれましては、ここで、本日の中間報告会は終了となります。お疲れさまでございました。

今週の 12 月１日水曜日と２日の木曜日には、第１回相談会がございます。今、この場ではちょっと時間が足りないくらいだったのかもしれないんですけれども、１日と２日に分けて相談会がありますので、そちらのほうで引き続き積極的にご相談していただければと思います。

委員の皆様は、これから休憩に入ります。再開は午後３時からになります。それまでにお席にお戻りくださいますよう、お願いいたします。

後方のテーブルにいらっしゃるステップアップ支援コースの委員の方は、申しわけないのですが、こちらにご移動いただきますよう、ご協力をお願いいたします。

それでは休憩といたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

午後２時 50 分　休憩

午後３時　再開

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

（２）協働コース中間報告会

（事務局）３時になりましたので、始めさせていただきたいと思います。

では、山岡委員長、お願いいたします。

（山岡委員長）再開いたします。

ここからは議題２「協働コース中間報告会」となります。

協働コース中間報告会の進行について、事務局より説明をお願いします。

○事務局より、進行及び委員自己紹介等について案内が行われた。

（山岡委員長）それでは、早速、中間報告に移ってまいります。

①特定非営利活動法人自立生活サポートセンター・もやい

（山岡委員長）最初に、特定非営利活動法人自立生活サポートセンター・もやいさん、それから協働団体、藤沢市地域共生社会推進室さん、「孤立状態にある人と共に生きるための畑作り」についての発表をお願いいたします。

（特定非営利活動法人自立生活サポートセンター・もやい）本日はありがとうございます。

特定非営利活動法人自立生活サポートセンター・もやいで畑を担当しております松下と申します。

（特定非営利活動法人自立生活サポートセンター・もやい）もやいの理事長の大西と申します。よろしくお願いします。

（地域共生社会推進室）協働相手でございます藤沢市役所地域共生社会推進室の佐藤と申します。よろしくお願いいたします。

（地域共生社会推進室）同じく田代と申します。よろしくお願いいたします。

（特定非営利活動法人自立生活サポートセンター・もやい）松下のほうから、「孤立状態にある人と共に生きるための畑作り」についての中間報告をさせていただきます。

まず「事業の目的・概要」は、もう既にミライカナエル活動サポート事業申請のときに説明させていただきましたが、「畑の作業を通して、様々な人が役割を持ち参加できる居場所を作る」ということで、関係機関との連携や、ＮＰＯ法人農スクールとの連携、あと、地域でのイベント参加は、コロナ禍でまだ参加者が出てきていないのですけれども、そういうことを目標にやっておりました。

「活動実績」ですが、11 月 4 日時点のものを挙げさせていただいております。

畑での活動は計 28 回です。最初のころは、雨の日は天気が悪いのでお休みをさせていただいたりしたのですけれども、参加される方から、毎週やったほうが生活のリズムが乱れないということで、最近は雨の日でもさせていただいておりまして、毎週開催しています。

延べ 228 名の参加者がいて、そのうち藤沢の方は 24 名です。今のところ、まだ 10 分の１ぐらいです。当初の数カ月は、もやいの人たちだけで農作業をさせていただいたのですけれども、最近は藤沢からの参加者もふえていて、今は大体３分の１が藤沢から来ていただいております。

20 代から 70 代までの幅広い方に参加していただいているのですけれども、一応これは 11 月 4 日時点の実績ですが、実は 10 月末に収穫祭をさせていただいたときに、６歳のお子さんとお母様にご参加いただきました。その後、11 月 11 日の農作業のときにお二人で来ていただけるということで、確実に地域のほうにつながり始めたと考えております。

「イベント実績」は、先ほどお話ししたとおり、10 月 28 日に見学会を開催しました。藤沢市の民生委員の方々など、参加希望いただいた方に、コロナ禍なので、参加者 10 名と限っているのですが、畑の見学会をさせていただき、一般の方に収穫祭ということ

でお芋掘りのイベントをさせていただきました。

こちらは10名申し込みがあって、10名と書いてあるのですけれども、実は１名キャンセルが入ったので、９名でした。お手元の青い大きい冊子のほうには９名と書いてあると思います。すみません、そこら辺、相違がありました。

「広報実績」としては、８月 28 日に、畑を使わせていただいておりますＮＰＯ法人農スクールの小島代表様が取り上げられたＢＳ朝日の番組で、もやい畑のほうもご紹介いただきました。

また、「Ｆ－ｗａｖｅ」という冊子がお手元にあると思うのですが、そちらにもご紹介いただきました。あと、見学会に先立ち、地域共生社会推進室のほうから民生委員児童委員協議会にて、もやい畑の周知を行っていただいたり、「広報ふじさわ」で収穫祭の案内をさせていただきました。

あと、先日、11 月 25 日に、ＦＭ藤沢にて活動を紹介いただくなど、広報実績として載せさせていただいております。

「課題及び対応策」ですが、課題として今２つ挙げております。

１つは、地域の他団体との連携があまり進んでいないのです。農スクールさんとは、すごく密にさせていただいているのですけれども、ほかの団体となかなかできていないので、関連イベントの参加を通じて連携を深めたいと考えております。地域共生社会推進室様とご相談し、2022 年、来年２月に遠藤地区で行われる「あなたの人生会議」イベントに活動紹介ブースの設置を検討させていただいております。

また、ここにはまだ記載させていただいてないのですが、神奈川県で児童養護施設にいる方たちの就労支援をしている団体とも連携して、就労体験というか、もやい畑は就労ではないのですけれども、社会参画の受け入れ先として、受け入れをさせていただこうかなというふうに検討を始めております。

２つ目は、畑での居場所の強みをまだ生かし切れていない。わざわざ遠くからだったり、藤沢からもメンバーが毎週来てくれている。私自身はすごく楽しんでいるし、みんな楽しく参加していただいているのですけれども、なぜそんなに楽しく参加してくれているのだろうか、私自身もわかってないところがあったので、それを参加者の皆さんにインタビューして、それを紙に落としたり、何かしらの形でご報告できるようにすることで、より畑に参加してくださる方がふえるのではないかと考えております。

「今後取り組む内容」として、１つは「もやい畑応援隊」の仕組みづくり。これはミライカナエル活動サポート事業の申請をするときにも書かせていただいたのですが、２

年後、３年後も継続して畑をするためにも、応援隊という形で畑にかかわる人、あと畑の資金を集めるためにも、そういう仕組みをつくっていきたい。ただ、申請した段階で、それは私とかもやいのスタッフの考え方ではあったのですが、今後は参加者、参加してくれる人たちと一緒に、これからもやい畑をどうやって続けていくかということを話していけたらと思います。

あと、さっきから課題にも挙げているのですけれども、もっと地域に根づけるよう、できることを検討していくということで、来年度に向けて、コロナのほうも落ちついてきたのであれば、イベントのほうも復活されると思うので、地域のイベントなどに参加することを検討していきたいと考えております。

（地域共生社会推進室）藤沢市の地域共生社会推進室の佐藤です。藤沢市ともやいのかかわりということで、最後のスライドで少しだけご説明させていただきます。

市の役割としては、もやい畑の周知にとどまらず、藤沢のいろいろな関係機関とマッチングしていくことが１つ大事なことなのかなと思っております。

ここに書いた連携先、市社会福祉協議会のコミュニティ・ソーシャルワーカーとか、地域包括支援センターとかと一緒に、このような形でもやい畑のチラシをつくって宣伝しております。

あと、９月の民生委員児童委員協議会で、「もやい畑の見学会&収穫祭」が10月にあるのに合わせて周知させてもらいました。民生委員さん、児童委員さんもこの取り組みに結構反応してくださっていて、当日の見学会にも来ていただきました。また、それに先立って、ほかの地区の方々が別途見学したいということもございますので、これから連携が深められるのかなと思っております。

あと、市のほうでかかわっている農スクールさんとのかかわりは、もやいさんのほうでもされているところなんですが、県のほかの補助金事業で、右下に書いてある「農の力で一歩踏み出すＢｏｏｋ」という孤立状態から抜け出すための啓発冊子も別途つくっておりますので、こういったものと合わせて呼びかけていければと思っております。

市の地域共生社会推進室では、いろいろな形で社会参加支援の取り組みを進めていく立場でありますので、社会福祉協議会でやっている社会参加の取り組みの一環として、畑を通じた居場所づくりというところは、１つの選択肢を広げていくというところで、すごく大事に思っております。なので、これから、もやいさんと協力して、藤沢の方にいろいろな形で周知していき、藤沢の関係機関とのつながりを進めていければと思っております。

（地域共生社会推進室）私は生活困窮者の自立支援の相談をしておりまして、３名ぐらいの方に声をかけていたのです。実は今までこちらに３回ほど出て、ほぼ空振りだったのですけれども、最後の収穫祭のときに、40 代の男性の方に来ていただきまして、一緒にサツマイモと里芋を収穫させていただきまして、大きな一歩だなと思っております。こういった形で、根菜みたいな形で地域にうまく根づけたらいいなと考えております。

（山岡委員長）発表ありがとうございました。

それでは、この後、質疑応答という形で進めます。委員の方からご質問がありましたら、よろしくお願いいたします。

（坂井副委員長）孤立している人に参加していただくということだったのですけれども、先ほど生活困窮者のお話をいただきましたが、実際のところ、どういう方が参加しているのかな。

それと、参加した当初とこれまで一定期間続けてきましたが、何か参加者の行動変容といいますか、そういったところが見られるのかどうか、その辺をお伺いしたいと思います。

（特定非営利活動法人自立生活サポートセンター・もやい）先ほどお話ししたとおり、今もやいからの参加者が３分の２ぐらいを占めているのですけれども、その方たちは、相談だったりして、もやいからつながっている人です。交流事業ということで、サロンに来たりして、いろいろ関係性があった人が来ています。藤沢からの方については、ＮＰＯ法人農スクールさんのプログラムを終えられた方で、就農につながらないけれども、畑のつながりは消したくないというか、続けたいということで、農スクールさんからご紹介していただいた方が２名ぐらいいらっしゃいます。

そのほかに、先ほどお話しした収穫祭に参加された親子の方が来られたり、あと、田代さんのほうからご紹介された方が来ています。孤立状態にあるのかないのか、細かくは聞いていないのですけれども、農スクールさんに通うということは、それだけなかなか社会参画できない、社会から孤立状況にある方とか、何かしらの理由で社会とつながれない方が来られている状況だと思っております。

行動変容についてですが、もやいから来られているお一人の方が、私も５年以上その方を見ているのですけれども、サロンのときは挨拶しかされなかった方がいたのですね。その方が毎週毎週畑に通うことによって、自分の役割みたいなものを見つけられている。逆にその親子とか、新しく来られた方を気遣う。「みんながちゃんと新しい人を受け入れるためにケアしてくださいね」とお願いしたら、収穫祭のときは初めましての人に、

自分から挨拶してくれたり、あと、その人が何か困っていたりすると、手を差し伸べてくれています。

農スクールから来られた人は結構若い方が多いので、もやいから来た年配の方たちと、そんなに触れ合ったことがないと言うのは語弊があるかもしれませんが、多分そんなにコミュニケーションをとったことがないと思うのですが、一緒に畑をすることで、恐らくお互いに偏見があるとは思うのですけれども、そういうのが緩くなって、なくなるわけではないのかもしれないのですが、つながりみたいな、仲間というか、顔見知りというか、そういう形で畑の仲間みたいな感じで、終わった後にちょっとおしゃべりしたりして、結構違う関係性が築けているように思います。

（特定非営利活動法人自立生活サポートセンター・もやい）補足ですが、私は畑にまだ１回しか行ってないのですけれども、ただ、その１回でもすごく見えたことがたくさんあります。我々はふだん東京にある団体なので、そこで、カフェとかサロンとかやっているのですが、もちろんそういう居場所というのも、そこでのつながりがあったり、当事者同士の交流だったり、地域とのつながりが生まれるのです。

一方で、カフェとかサロンはコミュニケーションが結構必要なので、そういうことが苦手な方は、つながりをつくるのが大変だったりするのです。こども食堂とかいろいろな事例はありますけれども、きっかけはすごく大事です。畑の作業というのは、変な話、雑草を取るとか、作業自体は、ハードなものもあるのですけれども、ハードではないものもある。その人の体調とか状況に合わせて、作業を通じて、ある種、参加しやすいというか、知らない人とも、何となく、例えば鎌を貸し借りするとか、「これ取って」とか、言葉が生まれやすいというところは、強みとしてあるのかな。

それと、我々の団体のつながりの中で来られた方というのは、生活が苦しい方だったり、生活保護を利用しているような方が一定数いらっしゃるのですけれども、農スクールさん経由とか、藤沢市からつながってこられる方は、ひきこもりの方だったり、もう少し若めの方だったり、いろいろな属性や背景要因を抱えている方が結構まざる。

多分それぞれのしんどさとか、いろいろな思いはあるのでしょうけれども、作業を通じて、１日汗をかいて、すっきりした表情で帰られる。もちろん来るのは自由なので、来なくてもいい。来ない選択もできるのですけれども、また来たいなと思ってくれて、リピートしてくれている人が多いというのは、１つ行動変容になっているのかなということを補足で説明させていただきました。

（原田委員）藤沢市からの参加が、農スクールの方が多いという話がありました。藤沢市

の自立支援に該当する層のお一人に声をかけたという話が先ほどありましたけど、そのあたりの参加者をふやしていくというか、もやいさんからの方と同じような感じの方というか、そういうところも必要かなと思うのです。公的な機関の社協さんとか、地域包括とか、そのあたりは声をかけられていると思うのですけれども、民間の支援団体とかも含めて、藤沢市の参加者をぜひもっとふやしていただきたいと思うので、そのあたりをどういうふうに考えているか、お聞かせください。

（地域共生社会推進室）今のところ、こういった公的な機関の周知、プラス民生委員さんのほうに呼びかけております。これからまた、こちらでやっているイベントであったり、「人生会議」のイベントであったり、そういったものに、もやいさんも含めて一緒に参加できるような機会をふやしていきたいと思っております。

あと、今後、市民活動推進機構さんとの連携を深めるところで、広報紙の「Ｆ－ｗａｖｅ」のほうには取り上げていただきましたが、また今後ＮＰＯ法人さんとの連携の事例もあるということなので、そこも物すごく大事にしていきたいと思っております。

あとは、我々の相談機関としての対象となる方のマッチングも、先ほど田代が言ったように、そういう草の根的な呼びかけも今後やっていきたいなと思っております。

（原田委員）そこに行くための交通費は自分で払っていくのですか。――出していただけるのですね。わかりました。

（山岡委員長）私からよろしいですか。人数が延べで書いてあるのですが、先ほどのお話だと、来てもいいし、来なくてもいいよとか、あと毎週来たいという声があるということでした。定期的にかかわっている方と、そうでない人の割合がどれぐらいかとか、どれぐらいの方が毎週来ているのか。

もう一つ、これは藤沢市の税金でやるということもあるので、藤沢市の方に入ってもらいたいということを考えたときに、今３分の１か４分の１ということですけれども、できれば半分以上、藤沢市内の方だといいかなと思うのです。そうなったときに、全体のキャパシティーというか、何人ぐらいまでだったら受け入れられるのか、その辺のことを教えていただけますか。

（特定非営利活動法人自立生活サポートセンター・もやい）今８名ぐらいの方が来られています。その中でコアなメンバーが５人から６人ぐらいです。だからといって毎週その人たちが来ているわけではないのですが、コアなメンバーはそれぐらいになっています。

15 名ぐらいは受け入れられるのではないかという話は、最初にさせていただきました。それで、まだ８名ぐらいなので、余裕はあるということです。

あと、先ほどお話ししたとおり、結構長くかかわってくれているメンバーが、新しく迎えた人をフォローしてくれるようになってきています。ワッと来られると、逆に困ってしまうのですけど、徐々にふえていったとしても、コアなメンバーがその役割を変えていくということで、今後もしかしたら広げられるのではないかという予測はしております。

（坂井副委員長）先ほどの話に関連するのですが、農業の専門家を育てるというような最終目標ではないわけですね。それもそうあってもいいのだけれども、そうではなくて、むしろ生活力というか、そういうところをもう少し広げていってあげたいということですよね。なので、できれば、どういう方が入ってこられて、活動を続けてどういうふうに変化したのか、そこをそれぞれ押さえていただけるといいなと思いました。そうすると、そういう事例が積み上がると、どんな方にこういう効果があったとか、そういうことが蓄積されますよね。そういうところで、ほかの活動ともつながれると思うのです。なので、そういうところを意識しながら進めていただけるといいかなと私は思いました。

（山岡委員長）評価とか効果の部分ですね。

（特定非営利活動法人自立生活サポートセンター・もやい）先ほどありましたが、まさに２ページ「課題及び対応策」です。作業後のインタビューみたいなものをちょいちょいやっていこう。どういう理由で参加して、ここでどういうことを経験して、どう変化していったのか。量的な母数があるわけではないので、お一人お一人のところ、もちろん個人情報とか、いろいろ微妙なところは配慮しつつも、何らかの形にしてやっていきたいなということを今ちょうど考えているところです。

ただ、先ほどから委員の方にご質問いただいたように、藤沢の方にもっと来てもらいたいというのを我々もすごく思っています。ただ、コロナでなかなかイベント系のことがやりづらくて、周知の方法にも限りがあったのですけれども、ぜひ藤沢の方につながっていただきたいというのは我々も思っておりまして、皆さんのチャンネルも使ってご協力いただけたらすごくうれしいなと思っています。あと、行政のほうでも、社協さんのほうでも、いろいろ考えてくださっているということで、そこをがっつりやっていくということかなと思っております。

（山岡委員長）収穫祭は多分お土産で、サツマイモ、里芋だと思うのですが、夏野菜などもあると思うのです。収穫した野菜はどんなふうに活用されていますか。

（特定非営利活動法人自立生活サポートセンター・もやい）今は毎回山分けして、お土産にして、持って帰っております。

（山岡委員長）今はそれで全然いいと思うのですが、収穫物は結構活用できると思うのです。どこかでマルシェ的に売るというのもあるし、それをどこかに寄付するとかもある。あと、今は難しいかもしれないけれども、調理してみんなで食べるとか、その辺もうまく工夫して活用してもらえるといいなと思いました。

（特定非営利活動法人自立生活サポートセンター・もやい）今はコロナなので、終わった後、みんなすぐに解散してしまうのですけれども、野望としては、行く行くは、採ったものをみんなで食べるという機会はつくりたいと思っております。

（西上委員）藤沢の人にたくさん参加してほしいと皆さん言われているのですが、こういうチラシは畑のある周囲にポスティングとかしているのですか。

（地域共生社会推進室）ポスティングまではまだしてないです。

（西上委員）福祉就労とか、福祉系のこういうタイプのものは、その場所から歩いて行ける範囲のお宅にポスティングすると、物すごい確率で来るケースが全国的に多いのですね。近いから行ってみようか、毎週やっているらしいから行こうかというふうになる可能性がすごく高いです。徒歩何百メートル圏内にするかはご検討されたほうがいいと思いますが、ポスティングというのは非常に有効な手だと思います。

なので、足で稼いで、ちゃんと地域の人に来てもらう。その地域の人のクチコミから、さらなる市民の参加をふやすみたいな方法です。すごく地味ですけれども、やる価値は多分あると思います。それをまくタイミングも、早くまき過ぎると、忘れてしまうわけですね。だから、どのくらい前にまくと、効果的なのかは、何回か実験する必要があると思います。１カ月前にまけばいいのか、10 日前にまけばいいのか、その辺はコツがあると思うので、それをされたほうがいいのではないかと思います。

あと、今このチラシは片面だけです。これが実際に配ったチラシですか。――これは裏がもったいないですよね。こういうものに参加するときは、やっている人たちはどんな文化のある人たちなのか。チームワークを大切にしてこの畑をやっているのか。それとも、数をちゃんと数えたりすることを大切にしてやっているのか。どこかに売るということを大切にしてやっているのか。何を大切にしてこの畑をやっているのかという主催者の文化面をきちんと書かないと、行こうという一歩に踏み出せないことがあると思うのです。せっかく紙の裏面が白くなっているのだったら、それをちゃんと書かれたほうがいいのではないかなと思いました。

（山岡委員長）ほかはよろしいですか。

時間もそろそろだと思いますので、以上で質疑の時間を終了したいと思います。どう

もありがとうございました。

（団体入れ替え）

②フジサワキカク

（山岡委員長）次の団体はフジサワキカクさんです。協働相手は藤沢市の広報シティプロモーション課さんです。「＃フジサワの高校生」についての発表をお願いします。

（フジサワキカク）よろしくお願いします。フジサワキカクの村田です。

（広報シティプロモーション課）協働事業者であります藤沢市役所広報シティプロモーション課の二宮と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

（フジサワキカク）では、早速「＃フジサワの高校生」事業の中間報告を始めさせていただきます。

まず最初に、コロナがあったのですが、この半年間、実際に高校生たちと触れ合いながらコンテンツをつくっていく中で、これは物すごく可能性がある事業だなというのを感じさせていただきました。それはこの事業を採択していただいた皆様のおかげなので、この場をかりて、お礼を言わせてください。ありがとうございます。

では、早速、実際にどんな高校生たちがいたのかというのを含めながら話させていただきます。

まず、「本事業の目的」は「高校生に愛される、青春を応援する街にする。」これが大きな目的です。

その中で、２つの事業を通し、それを実現したいと思っています。１つ目がコンテンツ事業です。もう一つが大人サポート事業というものです。

それぞれやってきた内容について報告させていただきます。

まずコンテンツ事業です。「気づく、知る、参加する」という３つのキーワードをもとに、高校生と街をつなぐプラットフォームです。現段階では、そういうチャネルがないので、そういうものをつくっていく。コンテンツ創出というのが、コンテンツ事業の目的です。

まず、大きく前回、去年お話しさせていただいたとき、ブランディング事業とＳＮＳ事業とラジオ、その他イベント事業というのがあります。

まず、８月、ブランディング・ポスターというのを、市内の交通機関で、前回は小田急、江ノ電と協力させていただいて、全部で 15 駅ぐらいに貼らせていただきました。

実際こんな感じで各駅に貼る。これは藤沢駅のコンコースです。実はこの枠は、このポスターをきっかけに、この事業が終わる来年まで、このプロジェクトで使っていいよということで、小田急さんに提供していただきました。

ブランディング・ポスターを２回やっています。あしたから貼られるのですが、第２弾もやっています。

第２弾の参加者たちの声です。ＳＮＳで集めたのですが、第１弾のポスターとか、コンテンツを見て、私もこういうふうに映りたいなとか、友達がかっこよく映っているからやりたいなみたいな、やはりコンテンツをつくることで、興味・関心を引くことができたのかなと思います。実際にモデル２人募集だったのですけど、24 人ぐらいが応募してくれました。

あしたから貼られるポスターです。ついに山に行きました。左側が江の島の湘南ふ頭と呼ばれる釣り人たちの聖地です。右側が引地川親水公園です。天神橋と水天橋というちょっと似たような橋があるので、そこをモチーフに、男の子、女の子、ギターを弾く、歌を歌う。海も山もあるよ。だけど、１個だよというのを伝えられるようにつくっております。以上がブランディングです。

やれてないことと言えば、ムービーをつくる予定だったのですが、もともとのムービーのアイデアが、高校生をがっつり集めて撮るというものだったので、コロナ禍で、これは意外とポスターでいったほうがいいのではないかという判断で、ポスターを、本来１回であったところを２回にしました。

ただ、そのメリットとして、やはりそうやることによって、第２弾、実は湘南モノレールさんと、あと、ついにＪＲをこじあけまして、ＪＲにも協力していただけることになっております。

こちらがＳＮＳです。フォロワー223。大したことないかなと思いつつ、これでも高校生が大体６割、120 人ぐらいです。でも、意外にＳＮＳで若年層のフォロワーとかリーチできるというのが結構なくて、徐々にですが、ふえていっています。

ブランディング・ポスターのアドとかかけると、大体２万人です。市内の高校生全員にはリーチできるようになっているので、必ずしもフォロワー・イコール・リーチ数ではない。こういうのがあることで、リーチできると思っています。

これはＳＮＳで「屋上ポートレート」です。これは去年の６月に撮っています。

「藤沢青春シリーズ」をついに撮り始めました。少しずつ動きやすくなりました。一番左が、海でギターを弾く。真ん中が、親水公園で歌を歌うというものです。一番右が、

田園の美しいところをチャリで疾走する。安全上の注意はちゃんとやりながら撮影しています。

今後は、例えば、地域に絡めて、古久家でラーメンを食べるとか、江ノ電の一番前の車両に乗るとか、ちょっと手を出すとできるけど、普通に生活していると気づかないようなちょっとおもしろいことを、「青春50」ということで撮っていきます。

高校生の参加みたいなところで、毎回コンテンツに高校生が絶対に参加しているのですが、それとは別に「情報発信部」というのをつくっています。これは完全に藤沢が好きな子たちを集めています。その子たちに「どうやって魅力を伝えるの？」という企画の出し方を少し教えながら、実際に何を企画するかというのをやっています。

彼女たちがやりたいと言ったのが、自転車で市内をめぐって、自転車のよさを伝えたいということを企画として提案されました。先々週、実際に撮影に行って、今、彼らが編集をやっている動画を待っている状態です。

それとは別に、高校生たちが日ごろの高校生活をつぶやく「高校生のつぶやき」というのをしれっと始めております。

あとは、タピオカを配るみたいな企画もあったと思うのですが、ここに対しては、高校生の実際のニーズに合わせながら調整中という感じで、第１弾として「写るんです」というものを配っています。一気にパコーンと配るのではなく、今回３人ぐらいに配っています。

これでわかったのが、ＳＮＳアカウントでこれまで地道にポスターとかをつくることで、高校生が何かやりたいとなったときに、本当にリアクションがすぐに来る。集めようと思ったら集められるというプラットフォームとしての機能は少しずつできてきたのかなというのが、今回やってみてわかりました。

江ノ電の石上駅がガラガラだから貼ってもいいよみたいな話を言われているので、上がってくる写真にもよりますが、来年の２月ぐらいに貼れたらいいかな。

これは卒業生を絡めた企画で今つくっています。卒業生の大学生です。大学生だからこそわかる高校生活の価値みたいなのをポエムにしてもらって、イラストレーターさんに絵をつけてもらう。このイラストレーターさんはもともと善行出身で、今アメリカ在住です。なので、見た目として、やはりちょっと違うなというものを描いてもらう。これは下書きです。さらによくなる。卒業生の活用もこのようにできるかなというのを今試しています。

ラジオはレディオ湘南で毎週金曜日の20時から20時半までやっておりますので、皆

様、ＦＭプラプラをダウンロードの上、ぜひご視聴ください。

ラジオとプラス YouTube とインスタを今つくっています。今メディアをいろいろ試している最中という感じです。ただ、実際に番組で曲とかを募集しているのですが、ＳＮＳで大体リクエストが来るので、そこでコミュニケーションがちゃんとできているという感じです。

「まとめ」としては、コンテンツを制作することで、やはりコンテンツはいいなと思うのは、興味があってリーチしているというのがわかります。あと、実際にこういうのをつくっていますというと、手伝いたいよという企業さんは出てくるので、コンテンツの力はすごいな。

ただ、一方で、まだもっともっとリーチできるだろうというところとか、あと、もっと地元に絡めたものをやりたいなというところはあります。地域コンテンツ、コラボレーションコンテンツとか、あと、がっつりＰＲコンテンツとか、あと、集めた高校生をもう少し有効活用したいなと思っています。

「大人サポート事業」です。これは、まず今の段階では、営業資料とかをがっつりつくり終わっている段階で、実際にある程度営業に回っています。現段階で募金箱を置くことをやっています。大体 10 店舗。ただ、その中の７店舗は、やはり地元の古久家さんのところです。なので、実質は、多分、募金箱設置はまだ４ぐらいです。

ただ、これも話を聞いていて、実際に営業に行くと、いや、ここはこうだよ、ここはこうだよという声が聞こえるのがすごくよかったと思いました。プロジェクトの説明をしっかりとするようなもっとわかりやすい資料が必要だというのが明確に出たので、まずホームページをもう一回つくり直したいと思っています。あと、営業資料も、こういうことをやっていますと１枚貼れるようなものをつくりたいと思っています。

「今後の展望」はこんな感じです。高校生の「何かしたい」と大人たちの「何してあげたい」というのが確認できたので、そこをつなぐプラットフォームにもっとしていきたいと思っております。

（山岡委員長）それでは、ただいまの発表につきまして、委員の方からご質問をお願いいたします。

では、私からよろしいですかね。コンテンツがすごく充実しているし、次々やりながら、いろいろなことに気づかれて進められていると思ったのですが、協働事業というところがあまり見えなかったので、シティプロモーション課の方にお聞きしたいのです。資料のほうで、「一方で『当たり前』とされていることが、他方で否定されるなど、い

わゆる『文化の違い』を感じる」とか、「公金を活用している事業であることを意識したうえで、目的や手段・手法を共有しつつ、適切に事業を推進するためには、緊密なコミュニケーションが必要不可欠であると認識している」とちょっと気になる記述があるのですが、この辺についてもう少し具体的に、こういうところが課題だろうみたいなことをお感じになっているところ、あるいは、こういうふうにすれば改善していけるだろうみたいなところがあれば聞かせてください。

（広報シティプロモーション課）具体的に何か大きな問題が起きているというわけではなくて、ふだん我々が仕事をしているときに、通常の職場であれば、すぐその職場の中に同僚がいて、常にコミュニケーションをとりながら業務ができるのですけれども、やはり協働事業ということで、常日ごろから一緒にやっているわけではない。目標なり、あるいは事業の中身というものを常に共有していく必要がある。それは定期的に連絡会議を行いつつ、さらに、さまざまなＬＩＮＥとか、そういったものでの連絡は行っているのですけれども、そういうところをさらに密にやっていく必要がある。日ごろの市役所の通常業務とやはりそこは違うのだなというのをこの半年間やってきて認識している。そういうところを改めて認識したというのを書かせていただいたものでございます。

（山岡委員長）では、今のところ、具体的な協働作業に何か障壁があるとか、そういうことではないという理解でよいですか。

（広報シティプロモーション課）はい、そうです。

（山岡委員長）逆にフジサワキカクさんにお聞きしたいのですが、単独の補助事業ではなくて、市との協働ということでやっているのですが、その辺、協働としてやったことで、こういうことが新たな可能性とか効果が見出せたとか、あるいは具体的にこれができたとか、何かそういうことがあれば教えていただけますか。

（フジサワキカク）ひとえに今回、小田急、ＪＲさんなどとのつながりとか、湘南モノレールは副代表の沢田のつてがあるのですが、「市役所と協働ですよ」という入り方をすることで、コミュニケーションが圧倒的にスムーズになっているというのは実感しております。

実はこのスライドに入れてないことがあります。入れなかった理由は、前回提案した内容と違うことで動いているからという意味で、今、映れていません。実は江ノ電の「ＫＵＲＯＡＤ」という自転車のサービスが最近始まりました。「自転車に乗りたい」と言っていて、たまたまシティプロモーション課にいてその情報を聞いた。では、これもコラボコンテンツにしてしまえばいいというので提案にいったのです。実際に僕らフ

ジサワキカク単体でいったら、まずそもそもその情報が入ってこないですし、あと、話を聞いてもらえる段階までいかない。

実際に今回、ＳＮＳで出すコンテンツで間に合わなかったのですが、来年以降、高校生と10台でもいいから始めよう。「ＫＵＲＯＡＤ」は高いのです。こんなことを言うのも悪いのですが、１日 2400 円です。でも、乗るとめちゃめちゃおもしろいというのが彼らはわかった。では、高校生にそれを配ってもらえますかという話とか、実際に僕ら単体で高校生に対してクールなコンテンツをつくるというのは、ある意味で当たり前のことですが、それを地域の企業といかに組むかというところで、やはり僕ら単体ではできないので、確実に恩恵を受けているところであります。

（原田委員）やはり協働のところがちょっと気になると思っています。ＪＫ課がある役所もありますよね。そういうふうに、高校生のアイデアとか、若い人たちのいろいろな発想を、役所に生かしていくというか、施策に生かしていくということの考え方も必要かなと思うのです。そういう意味で、今回の協働を今後どういうふうにつなげていくかというところまで視野に入れて、かかわっていただいているのかなというのがちょっと気になったのです。

ＪＲさんとか小田急さんを紹介するというのは、彼らにとってはメリットがあるかもしれないけれども、役所にとってのメリットというのも追求していただきたいと思ったので、そのあたりのお考えがあればお聞かせください。

（広報シティプロモーション課）現在、シティプロモーションの施策として、例えば高校生の視点を入れたシティプロモーションというのは、具体的には行っていません。恐らくそういう事業というのは、シティプロモーションのほうで何かをするというより、今後例えば青少年事業とか、あるいは福祉とか、教育とか、そういう部分で、さまざまな高校生のお声というのは活用して施策を展開していく必要があるのかなと考えています。

なので、シティプロモーションのほうで、具体的に高校生のお声をいただいて、それを施策に反映する予定は今のところないのですが、我々のほうとしましては、現在、市民参加型のシティプロモーションというのを行わせていただいております。市民の方に藤沢の魅力を知っていただいて、その市民の声が外に拡散していくことによって、市外の方にも藤沢の魅力が伝わる。また、市民の方にも、その発信が、さらに自分のところにフィードバックされて、藤沢の魅力にさらに気づいていく。そのことによって、さらに藤沢のブランド力が高くなっていくという相乗効果を狙っています。

現在、我々のほうで、ＳＮＳとか、マスコットキャラクターとか、そういうものを活

用しての情報発信を行っております。その中で、高校生などの学生を対象にしたこういうブランディングというのが、今までスポッと抜けてしまっているところもありましたので、こういう事業を通じて、高校生を中心とした世代に、藤沢の魅力をこういう形でお伝えしていけるというのは、シティプロモーションにとって非常に有益なものだと考えていますので、引き続きこの事業を進めていきたいと考えております。

（原田委員）せっかくつながったので、生かしていただきたいし、このポスターとか、すごくクールでかっこいいと思うので、こういう切り口から、若い子たちが「藤沢、いいよね」と言ってくれるのは、すごく意義があると思うので、ぜひ今後の施策につなげていただければと思います。

（フジサワキカク）僕ももともと地域系のものは結構調べていて、鯖江市とかも結構やられていると思うのです。これはもう本当に本音といいますか、僕がやっていて思っているのは、ＪＫ課はすごくいい取り組みだなとは思うのです。でも、端から見ると、もちろんチャンスは与えてはいるのですが、少し利用している感じにも見えなくもないというのは、正直なところあります。あと、ダイレクトでそうやってしまうと、リーチできる層がかなり限られてしまいます。

一番最初にこのプロジェクトを始めたころは、どういう子たちが来たかというと、俗にいう「課外活動、大好きです」という子たちでした。ただ、今その層が徐々にずれてきて、部活を普通にやっている子たちとか、その幅が、あくまでもプラットフォームを目指しているので、そこのプラットフォームさえできれば、いざ市役所がそういう課をつくりたい、高校生課をつくりたいとなったときに、ちゃんとリーチできる。

最後にも書いたのですが、高校生が何かしたいというのは、もう間違いなくありました。でも、そこにリーチできてない層はまだ絶対にいます。そこは完全に僕らの責任としてやっていかなければいけないところです。

一方で、市とか、皆さんもおっしゃったように、何かしたいという大人の方も、お店とかあるのですね。そうなったときに、では、こういうプロジェクトがあるから、ここに相談してみようと言えば、僕らが今までのものを生かして、高校生に向けてちょっと企画を考えて、かつプラットフォームを提供する。そうすることで、これまでとは少し違った流れがつくれるのではないかと思っているのです。ぜひつくりたいですね。つくりたいのですけれども、このプロジェクトで出していくのかというのは悩ましいです。

（原田委員）そうですね。きっかけにしていただいて、逆に若者から市役所に対して提案していただけるような組織になっていただけるといいのかなと思います。

（フジサワキカク）何かやれたらいいなと思っているのですが、あくまでプラットフォームを整える。その中でやりたいところを、本当に農地で高校生にアプローチしたいという方がいたら、それはもうぜひコラボしたいです。

コラボレーションすれば、例えば映える写真を撮るから、農業をクールにやろうぜと言ったら、違う層の人たちが 100%来るのです。では、それをどこでポスターをやればいいのかとなったら、僕らはアカウントを持っているので、ＳＮＳでやりませんかというので集めていけるというのを、１年後、終わるころには目指して、その後につなげたいという気持ちは結構でかいです。

（原田委員）いろいろなところにつないでいって、ぜひ地元を盛り上げていただきたい。

（フジサワキカク）まさに地域連携がこれ以降の課題です。地域といいますか、お店とかですね。

（原田委員）よろしくお願いします。

（樋口委員）審査のときよりも、きょうの報告が聞けて本当によかったです。今のプラットフォーム化の話も、本当に心から応援します。

藤沢でも、これから世の中が人口減少して少子高齢化になって、この世の中のことを今盛んに話し合っているのは主に高齢者なのです。この先を生きる若者たちが、10 代の高校生とか、そういう意見を今からどんどん出して、計画を立てていったり、動いていったりしなければいけないのに、そういう子たちの意見がしっかり反映されない現状があります。ぜひ形になって、今言ったいろいろなところとのコラボみたいなものを、うちの法人もそうですし、皆さんが期待をしていると思うので、着実にやっていただけたらなと本当に心から応援しています。

（山岡委員長）ほかはいかがですか。よろしいですか。

質疑応答は以上にしたいと思います。ご発表ありがとうございました。次の団体の入れ替えをお願いいたします。

（団体入れ替え）

③ＮＰＯ法人湘南クリーンエイドフォーラム

（山岡委員長）次は、ＮＰＯ法人湘南クリーンエイドフォーラムさんです。協働団体は日本環境設計株式会社さんです。「海ごみの再利用で持続可能な未来創り」について発表をお願いいたします。

（ＮＰＯ法人湘南クリーンエイドフォーラム）それでは、「海ごみの再生利用で持続可能な未来創り」プロジェクトの中間報告をさせていただきます。

この活動は、市民団体のＮＰＯ法人湘南クリーンエイドフォーラムと日本環境設計株式会社様との協働事業となります。

私は、湘南クリーンエイドフォーラムの五十嵐と申します。

本日、参加しているメンバーとして、湘南クリーンエイドフォーラムの有賀氏、日本環境設計の高橋氏、この３名で説明をさせていただきたいと思います。

まず、この事業の主体でありますＮＰＯ法人湘南クリーンエイドフォーラムの活動の中で、「調べるビーチクリーン」ということを行っているのですが、その内容というか、概要をお話しさせていただきたいと思います。

「調べるビーチクリーン」は、ただごみを拾うのではなくて、ごみを拾いながら、ごみの動向を調査する活動です。ごみ拾い後に、ごみの発生要因から、ごみの発生抑制対策をみんなで考えることで、参加者の問題意識を深めることを目的としております。そこで得ましたデータを、発生抑制に生かして、社会変容であったり、社会変容を目指す市民科学的な環境活動となります。このプロジェクトでは、その活動で拾いましたごみの中から、ペットボトルを日本環境設計様にお渡しして、リサイクルするということがこのプロジェクトの趣旨となっております。

早速「調べるビーチクリーン」の活動結果をご報告させていただきます。

まず、参加者の割合とか、参加者からいただいたアンケートをご紹介させていただきます。

11 月までの活動の延べ参加者数は 324 名です。その内訳です。まず、参加者の男女比ですが、ほぼ一緒ぐらいの参加者でした。世代別の割合に関しましては、30 代から 50 代、60 代が主要な参加者という形です。30 代のご家族連れの若いご夫婦なども参加してくれておりますので、中学生以下に関しましては、参加者の比率の中では割と高いのですけれども、高校生、大学生の方たちの参加率が少し少ないということが１つ課題かなと考えております。

参加していただいた方たちの、この活動に参加してどうでしたかというようなアンケートの結果に関しましては、「大満足」、「満足」を合わせると、ほぼ 100%です。98%ですね。それ以外の「普通」という方は２%ほどおられたのですけれども、活動に対する満足度の非常に高い活動かなと考えております。それがあって、また参加したいという方がほぼ 100%という形になっております。

もう一つのごみの調査活動に関する結果をご報告いたします。

私たちの「調べるビーチクリーン」は、ＩＣＣという世界基準の調査活動に準じた調査をしています。ごみを 48 種類に分類して、その数を数えるという活動です。多く拾われたごみのワースト 20 が、このスライドの図になります。

一番多かったごみが「硬いプラスチック片」、その次に「タバコのすいがら」、「ポリ袋片」、「発泡スチロール片」、こちらのものが上位４位になっております。いずれも非常に小さなごみがたくさん拾われているという活動結果になっております。

ちなみに、ごみの多い川などで活動いたしますと、ペットボトルであったり、飲食以外のプラスチックの容器などが上位になるのですけれども、この海岸の調査では、小さなごみが回収の主体となっております。

円グラフでその割合をあらわしております。破片が 50%以上、プラスたばこ関係、吸い殻ですね、そういうものを入れると、約７割が小さなごみという活動結果です。

この結果がどういうことを表現しているかといいますと、非常にきれいな海岸だということがわかります。ごみ拾いをやっておりまして、経験された方はわかると思うのですが、まず目立つごみであったり、拾いやすいごみから活動で拾っていくのですが、小さなごみは、たくさんごみがある場所では、なかなかそこまで手が届かないことが多い。ごみがたくさんあるような場所で活動すると、大きめのペットボトルであったり、空き缶、飲料瓶、そういうものが多く回収されるのですけれども、私たちの今回のプロジェクトでは、小さなごみが非常に主体となった活動結果となっております。

活動件数は 12 回で、延べ参加者が 324 人、ごみの総回収数が 6162 個という活動結果です。

このプロジェクトでは、ペットボトルをリサイクルするということを協働事業としてうたっているのですけれども、この「調べるビーチクリーン」で回収できましたペットボトルは 24 本でした。順番で言うと、23 位なんですけれども、数としては想定した数よりも非常に少なかったという結果となっております。

私たちのプロジェクトは、藤沢市様から試験的には１年間援助をいただくということで申請しているのですけれども、申請書類に、２年目以降どうやって継続するかというような欄があります。記入した内容の中に、活動範囲を広げるというようなことをうたっているのですけれども、そのベースとなるような活動を私たちの団体は行っておりまして、そこから得られた海岸の状況の報告をさせていただきたいと思います。

私たちは神奈川の自然海岸 150 キロをビーチクリーンして回るという活動をしており

まして、そこから得た海岸の状況のお話をさせていただきます。

ことしで５年目ですが、データをとっているのが４年で、その経年変化のグラフとなります。ことしの活動が赤い折れ線グラフです。

「パート６」という部分が湘南エリアのごみになるのですが、そのエリアはごみが非常に少ない。いろいろな条件があってこういうことになっているのですけれども、ことしに関しては、私たちの活動が少し足りないだけではなくて、ごみ自体が少なかったということが原因となっていたと思います。

それを今後どうやって対策をとっていくかということです。私たちとしましては、この「調べるビーチクリーン」以外に、ビーチクリーン駅伝から得た知見をもとに、ごみの多い場所で、ペットボトルをターゲットにした新たな活動を行いたいと考えております。最終的にリサイクルに回せる数というのは、これから計画を練っていくことになるのですけれども、そういった形で対策を練っている状態でございます。

（山岡委員長）時間なので、質疑に入ります。

手元にあるパワーポイントだと、まだ途中の感じなのですけれども、どうしましょうか。まず、とりあえず質疑に行きましょうか。皆さん見て、ここが一番気になるところだと思うのですけど、時間が限られていますので、質問していただければと思います。いかがですか。

では、私が質問していいですか。これを読んだだけですが、結論とすると、協働事業をするだけのごみが集まってないという理解でいいのですか。

（ＮＰＯ法人湘南クリーンエイドフォーラム）中間活動の結果としまして、日本環境設計さんにお渡しするペットボトルの量は非常に少なくて、それだけではリサイクルできる状況ではないということです。

（山岡委員長）さっき 23 本とおっしゃったのですが、最低ロットというのは何本あればリサイクルできるのですか。

（ＮＰＯ法人湘南クリーンエイドフォーラム）２万本ぐらいが量産のロットになってくると思います。

（山岡委員長）そうすると、当初の計画では、本当は２万本集めるはずだったけれども、23 本しか集まらなかったという理解ですか。

（ＮＰＯ法人湘南クリーンエイドフォーラム）当初は集めることを積み重ねて、将来的にリサイクルする。

（山岡委員長）今年度ではなくて、将来的に。

（ＮＰＯ法人湘南クリーンエイドフォーラム）今年度ではないです。今年度はリサイクルの準備期間的な形ですね。

（山岡委員長）私は、今年度ビーチクリーン活動をして、集めたごみをリサイクルするのかと思っていたのですけれども、そうではなかったのですね。

（西上委員）一応ごみ袋で、200～400 袋回収する。そのごみがペットボトルかどうかとは書いてないですけれども、200～400 袋回収することを目標とするというのは、事業計画書には書いてあると思います。

（山岡委員長）協働事業としては、そのごみを環境設計さんのほうで何かするということだったのですか。

（ＮＰＯ法人湘南クリーンエイドフォーラム）そうです。環境設計さんにお渡ししまして、ことしの分及び来年以降の分でリサイクルするという設計になっております。

（山岡委員長）そうすると、当初、本当は２万本でワンロットなのですけれども、そのうちの一部分を集めるだけだったということであれば、集まる量が少なかっただけで、一応計画どおりという解釈ですか。

（ＮＰＯ法人湘南クリーンエイドフォーラム）記載されていない計画としましては、もっとたくさん集めたいという考えではいたのですけれども、結果的には現状はそこまで集まってないという形です。

（原田委員）収支予算書の支出の部分には、ペットボトルごみをリサイクル工場へ運送する費用とか、ペレットにリサイクルする費用が入っていますよね。だから、これは今年度やるということですよね。これは今年度の収支予算書ですよね。

（ＮＰＯ法人湘南クリーンエイドフォーラム）そうです。

（山岡委員長）では、今年度にリサイクルするということではないのですか。

（原田委員）今年度するということになりますよね。

（ＮＰＯ法人湘南クリーンエイドフォーラム）ペットボトルを拾ったものを保管して、工場に移動するという形で、52 万円弱の予算を計上しております。それが今のところ、ペットボトルが少ないゆえに、使えてないというような状況です。

（原田委員）当初の予定としては、今年度にある程度ペットボトルを集めて、それを運送する費用とか、ペレットにする費用というのは計上されているわけですから、それは今年度にやるはずだったということですよね。

（ＮＰＯ法人湘南クリーンエイドフォーラム）やる予定です。

（原田委員）そうでしたけれども、ペットボトルが集まらないので、この計画は成り立た

ないということになりますか。

（ＮＰＯ法人湘南クリーンエイドフォーラム）そういうのを対策としまして、違う活動というか、ペットボトルを集中的に拾う活動を今後行っていこうと考えております。

（原田委員）範囲を広げていく。

（ＮＰＯ法人湘南クリーンエイドフォーラム）そうですね。

（原田委員）では、あと何カ月かで最低２万本集めるということですか。

（ＮＰＯ法人湘南クリーンエイドフォーラム）２万本というのは、今回の事業ではうたえてないのですけれども、何年かかけて２万本を集めるというようなことは当初から考えていたのですが、それはいまだにこちらの事業としては変わらず考えています。

（原田委員）私がお聞きしているのは、今年度どうするのかという話です。今年度こういう予算書を出していて、ペットボトルが集まらなかったので、これはやめますなのか。市から助成金を 99 万 8000 円出しているわけですよね。できないところがあるのだったら、これは返却しますにするのか。そのあたり、来年にしますと言われても、ことしやるという収支報告なので、そこをどういうふうにお考えなのか。

（ＮＰＯ法人湘南クリーンエイドフォーラム）今回は中間報告なので、後半戦でペットボトルを集めるということで、範囲を広げます。そしてペットボトルを集めて、その運搬費用とかに充てる予定です。ただ、範囲を広げますので、運搬費用がちょっとかさんだりする可能性もなきにしもあらずなのですけれども、その辺、とにかく今年度はペットボトルを集める。そしてリサイクルするという一連の事業を、当初の規模にはならないかもしれませんけれども、それはやっていくという形です。

（山岡委員長）そうすると、そもそも事業の趣旨と変わってくるかもしれないと思ういます。要するに、藤沢の海がきれいだというのは、いいことだと思います。しかし協働事業として事業計画を立ててしまったから、何としてでもペットボトルを集めなければいけないからと、市外に出ていく。それにより市外の海岸がきれいになるのでそれもとてもいいことだとは思うのですけれども、しかしそうなると、事業の趣旨、当初の目的からは、少し逸脱する可能性もあるかもしれないなということは少し懸念します。ほかの委員の皆さんのご意見もあるかもしれないのですけれども、そこのところはちょっと気になります。

（ＮＰＯ法人湘南クリーンエイドフォーラム）この辺ですと、ペットボトルが日常的に多い傾向にあるのが相模川の河口です。相模川の河口にペットボトルがあるということは、海流や潮流によって砂が相模川の河口から江の島のほうに来るように、ペットボトルも

流れてくる可能性があります。先手を打って集めるということでしたら、相模川河口は結構ありますので、そちらのほうにも広げていこうかなと考えています。

（山岡委員長）ただ、これはまさに前段の部分でご報告いただいた市民参加でビーチクリーンをするという市民に対する啓発活動というのが、当然この事業は藤沢市民にとって意義があるということで評価されているところもあるので、確かに相模川の下流のごみが集められたらいいかもしれないのですけれども、そうすると、藤沢市民の方がビーチクリーンに参加をしていくという部分から少しずれてきませんか。それはそんなにずれないという理解でいいのですか。

（ＮＰＯ法人湘南クリーンエイドフォーラム）藤沢市民に対する啓発活動というのは続けて予定どおりやる。それにプラスアルファでリサイクルするための新たな活動を加えるということを考えています。

（原田委員）もし２万本集まらなかったときに、ことしはリサイクルができませんという話になったときにどうするのか。そのあたりを考えておいていただかないと、来年やるからというわけにはいかないのではないかなと思うのです。範囲を広げていただいて、できるだけペットボトルをふやそうというのは、変更ではありますけれども、ある意味、仕方がないのかなと思いますが、その先についてもご検討はいただいておいたほうがいいのかなと思いますので、よろしくお願いします。

（日本環境設計株式会社）補足説明ですが、２万本集まれば、その２万本で１つのロットで、次のリサイクルの工程に進めるのですけれども、海で集めたペットボトルだけでペレット化というのは非常に難しくて、通常の集められた使用済みのペットボトルと一緒にまぜるような形で次のリサイクル工程に進みますので、そのあたりは、２万本という目標に達しなくても、リサイクル自体は可能かと思っております。

（坂井副委員長）いろいろご努力いただいて、事業がうまく進むように考えていただきたいとは思うのですけれども、ただ、当初の計画ですと、範囲を広げていくというのは、２年目の計画だったかと思うのです。そういうこともあるので、もしここで活動の範囲を変えるとか、活動の方向をちょっと変えるのであれば、そこを整理していただいて、事業変更を申請していただいたほうがいいのではないかと私は思います。事務局のほうで調整していただきたい。その辺、後で金を返せというようなことになるといけないので、よく整理してやっていただきたいと思います。

（ＮＰＯ法人湘南クリーンエイドフォーラム）かしこまりました。

（山岡委員長）よろしいですか。

それでは、ご発表ありがとうございました。以上で協働コースの全団体の報告が終了いたしました。

ここで一旦事務局にマイクをお返しいたします。

（事務局）報告団体の皆様、山岡委員長、どうもありがとうございました。

ここで協働コーディネーターの手塚さん、堀さんより、コメントを頂戴したいと思います。お一言ずつお願いいたします。

（手塚コーディネーター）報告、お疲れさまでございました。委員の皆様も、質疑、大変お疲れさまでございました。

協働コースということで、皆さんの活動、それから会議も含めて、少しずつ参加をさせていただいております。そんな中で、行政と協働している団体さん、それから、今まさにご報告にあったように、民民との協働でやられている団体さんでは、やはり課題がそれぞれ違うかなと思っております。

行政とのやりとりの中では、先ほど二宮さんがまさにおっしゃっていただいたように、文化の違いがあるので、日本語が通じたり、通じなかったりということがあります。そこの部分は、私どもも十分承知をしておりますので、ある程度通訳のような役割をさせていただいております。

今回の２チームに関しては、本当に行政の方もしっかりとご意見をいただき、逆に民の方もそこを丁寧にお話をしながらご理解を進めていたと思います。ですので、成果として、今後楽しみかなというふうに期待をしております。

それから、民民の協働というのは、どうしてもある程度近しい関係の中で動いているので、今回のように、不測の事態というか、想像を超えた事態が起こったときに、どうしようということを、私ども会議とかにも出させていただいていたのですが、前半は、割と密接にお話をしていたような記憶があるのですが、後半は、ご連絡がなかっただけなのかもしれませんが、課題が浮き彫りになった時点で、もしかしたら、少しご相談いただけたらよかったかなという気もちょっとだけしています。

ただ、もう全て公金を使っているということを考えると、計画主義ではないと言いつつも、やはりそこに立ち戻って考えていくという方向はとても重要だと思います。まだ中間報告でございますので、引き続き調整をしながら、私どももできる限り参画をさせていただきますので、ある程度望んだ効果や結果が出るような事業を展開していただけたらと思います。

また、審査委員の皆様も大変ご苦労だと思いますが、やはり通常の助成金とは違いま

すので、もしここはどうなんだろうと思ったときは、行政を通じてでもよろしいので、団体さんのほうにお伝えいただけると、よりよい事業が展開されると思います。お目を離さず見ていただけると、とてもうれしく思います。

私からは以上でございます。

（堀コーディネーター）きょうは、皆さん、どうもありがとうございます。中間報告を聞かせていただいて、各団体さん課題がしっかりと見えていらっしゃいまして、それについての委員さんからの的確なご質問があったのではないかなというふうに受け止めております。私どもも、そこに着手しながら、団体さんのサポートと言ったら変ですが、一緒に歩かせていただければと思っておりますので、これからもよろしくお願いいたします。

特に団体さんが今取り組んでいらっしゃるのは、これまで藤沢市が取り組めてこなかったことに対してのトライです。ですので、さっき手塚が言ったように、当初だと、どうしてもここで変えなければいけないとか、当初より進めてきたら、いろいろなことが見えてきたということがあると思います。そういうところは、本当に細かいところですり合わせをどこかでする機会をつくっていただければと思います。

特にフジサワキカクさんについては、委員さんからのお話もありましたように、若い方が行政とか政策について、「藤沢市って言ってもいいんだ」というような環境づくりみたいなものの第一歩になれたら、これからのまちづくりが、とても明るいまちづくりになっていくのかなと思います。フジサワキカクの代表の方もお若いので、その若い力を、逆に言えば私どもに少し分けていただきながら、お互いに勉強できたらいいなと思っております。よろしくお願いいたします。

（事務局）お二人ともどうもありがとうございました。今後も団体のご支援のほう、どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、藤沢市市民活動推進委員会、山岡委員長よりご講評をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

（山岡委員長）皆様、どうもお疲れさまでした。ありがとうございました。

ミライカナエル活動サポートの協働事業は、審査に丸１年をかけているので、皆さんが第１期生と言うか、最初なんですね。最後の湘南クリーンエイドフォーラムさんは１年ということですが、あとの団体さんは２年間ということでやっております。長期的な活動でもあります。

私としては、２年ということを見据えて、ちゃんと軌道に乗って活動されているかな

ということと、協働コースですので、きょう実はこの前に、ステップアップとスタート支援の中間報告があったのですけれども、単なる補助金とは違うわけで、ちゃんと協働というところで、新しい価値を市民にどういうふうに提供できているかという２点を少し意識して聞かせていただきました。

前半部分に関しては、皆さん本当に着実に丁寧に事業を進められていて、すごく安心したというか、偉そうに言える立場ではないですが、うれしいなとすごく思いました。

湘南クリーンエイドフォーラムさんには最後にいろいろ質問して申しわけありませんでした。気になるところがありました。嫌なことを言うと思われたかもしれません。でも、事業に関しては、ビーチクリーンをあれだけすごくきちんとやられて、参加者の声も集められて、とても丁寧にやっておられます。

他方で、もう一個、協働という部分では、フジサワキカクさんでは、まさに行政と一緒にやっているからできたことがあるというお話があったのですが、私どもとしては、もう少し踏み込めることがあるのではないかなと、全てに関してちょっと思いました。

皆さん協力して熱心に連絡をとってやられています。先ほどコーディネーターからもそのようなお話がありましたが、団体さん側からもう少し行政に、端的に「こんなことをしてくれるとうれしいんだけど」と言ってもいいのではないかなという気がします。そうすると、「あっ、そういうことで一緒にやることもできるんだな」みたいな気づきもあると思います。別に計画書に書いてあるとおりでなくてもいいのではないかなという気がします。むしろそういう可能性を探るというのも、行政の負担金を使って協働をやる意味でもあると思います。幸い最初の２つに関してはまだ先がありますので、ぜひそんなふうに、お互いに単なる情報交換ではなくて、もうちょっと要求とか、そんなこともしていただきながらやると、可能性が開けるのではないかなと思いました。

民間同士の協働に関しても、もしかしたら同じような性質はあるかもしれません。こういう約束で始めたけれども、例えばリサイクルで協働と言ったんだけど、リサイクルできないかもしれない。でも、もしかしたらこういう部分での協働ができるかもしれないよねとか、何かそんなことも探っていただけると、市民にとって、もっと価値のあるものになるのではないかなと思いました。　　実際にどんな可能性があるかわからないですけど、そのような期待もあってたくさん質問をしました。何とぞご容赦いただきたいと思います。

（事務局）山岡委員長、どうもありがとうございました。

協働コースの団体の皆様におかれましては、ここで本日の中間報告会は以上となりま

す。お疲れさまでございました。

委員の皆様におかれましては、この後、議題３という形で、お疲れどころ恐縮ですけれども、５分休憩をとらせていただいて、皆様がおそろい次第、再開をさせていただきます。

再開は16時30分以降という形になります。よろしくお願いいたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

午後４時23分　休憩

午後４時29分　再開

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

（３）令和４年度ミライカナエル活動サポート事業について

（山岡委員長）皆さんおそろいになりましたので、再開します。お疲れのところ本当に恐縮です。

議題３「令和４年度ミライカナエル活動サポート事業について」、事務局より説明をお願いいたします。

〇事務局より令和４年度ミライカナエル活動サポート事業について説明が行われた。

（山岡委員長）これは前回の委員会でも一回議論して、その後、もし追加で何かあれば、メールでご連絡くださいということで、皆さん見て、一通り意見は出し切ったということで、それを踏まえての修正かと思います。これに沿って募集をかけることになると思います。

最終の確認ということかと思いますが、ご質問とか確認したいことがあれば、ぜひお願いいたします。いかがでしょうか。――よろしいですかね。もう見ていますし、特に問題になるようなことはないかと私も考えております。

よろしければ、この議題は特にご意見なしということで、議題３「令和４年度ミライカナエル活動サポート事業について」は終了したいと思います。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

（４）その他

（山岡委員長）それでは、議題４「その他」です。

事務局より説明をお願いします。

（事務局）市民自治推進課の一瀬でございます。

私からは事務連絡ということで、２点お話をさせていただきます。

まず１点目が、市民公募委員の募集開始に関するご案内でございます。現在、皆様には、第 10 期の市民活動推進委員会の委員をお務めいただいているところですが、今年度をもって委員の任期が終了することになりますので、来年度の４月１日からお務めいただく第 11 期目の市民公募委員の募集を、12 月８日から開始いたします。

審議会の委員につきましては、市の基本方針等で定めがありまして、基本的には２期を超えないことになっております。現在のところ、原田委員と鎌倉委員におかれましては、市民公募委員として第 10 期が１期目となりますので、再度エントリーしていただくことが可能でございますので、ご承知おきいただけたらと思います。なお、募集につきましては、12 月 10 日号の広報のほか、詳細はホームページでもご案内させていただきます。それが１点目でございます。

２点目は、次回の委員会についてでございます。次回は 12 月 11 日（土）午後１時からとなります。議題はミライカナエル活動サポート事業の令和３年度協働コースのヒアリング審査となります。協働コースの最終審査となりますので、基本的には協働コースの審査選考部会の委員の皆様にご出席いただくような形になります。詳細につきましては、また別途ご案内させていただきます。よろしくお願いいたします。

最後に、重ねてですが、本日、朝日町駐車場にお車を止めた方は、駐車券を認証機処理いたしますので、事務局のほうにお声がけいただけたらと思います。

事務局からは以上でございます。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

閉会

（山岡委員長）それでは、全ての議題が終了しましたので、以上をもちまして第７回藤沢市市民活動推進委員会を閉会いたします。長時間にわたり、皆様、大変お疲れさまでした。

午後４時 43 分　閉会